

平成 20 年 4 月の地震活動及び火山活動について

○ [地震活動]

震度 5 弱以上を観測した地震及び津波を観測した地震はありませんでした。4 月 28 日の宮古島近海の地震において、一般向けに緊急地震速報の提供を開始した平成 19 年 10 月 1 日以降（警報化は同年 12 月 1 日）、初めて緊急地震速報（警報）を発表しました。

全国で震度 1 以上が観測された地震の回数は 102 回、日本及びその周辺における M4 以上の地震の回数は 92 回でした。なお、4 月 29 日の青森県東方沖の地震では負傷者 2 名の被害が発生しました。

国土地理院の GPS 観測結果では、全国の地殻変動について特に目立った変動は見られません。

震度 3 以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙 1 のとおりです。また、世界の主な地震は別紙 2 のとおりです。

○ [火山活動]

桜島では、4 月 8 日 00 時 29 分に、昭和火口で爆発的噴火が発生し、弾道を描いて飛散する大きな噴石が 5 合目まで達しました。また、現地調査及び九州地方整備局の協力を得て行った上空からの観測で、火砕流が火口から東に約 1 km 流下した痕跡を確認しました。このように、昭和火口の噴火活動が活発化していることから、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 3（入山規制）に引き上げました。昭和火口ではその後も時々噴火が発生しています。南岳山頂火口では 28 日にごく小規模な噴火が発生しました。

三宅島では、5 月 8 日（期間外）08 時 32 分に、山頂火口でごく小規模な噴火が発生しました。

諏訪之瀬島では、4 月 16 日に爆発的噴火がありました。

その他の火山の活動状況に特段の変化はありません。

日本の主な火山活動の概況は別紙 3 のとおりです。また、世界の主な火山活動は別紙 4 のとおりです。

注 1：噴火警戒レベルには、レベル毎に防災機関等の行動がキーワードとして示されており、導入にあたっては、噴火警戒レベルの活用が地域防災計画等に定められることが条件となります。

注 2：国土地理院の GPS による地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表資料「平成 20 年 3 月～4 月の地殻変動について」を参照願います。

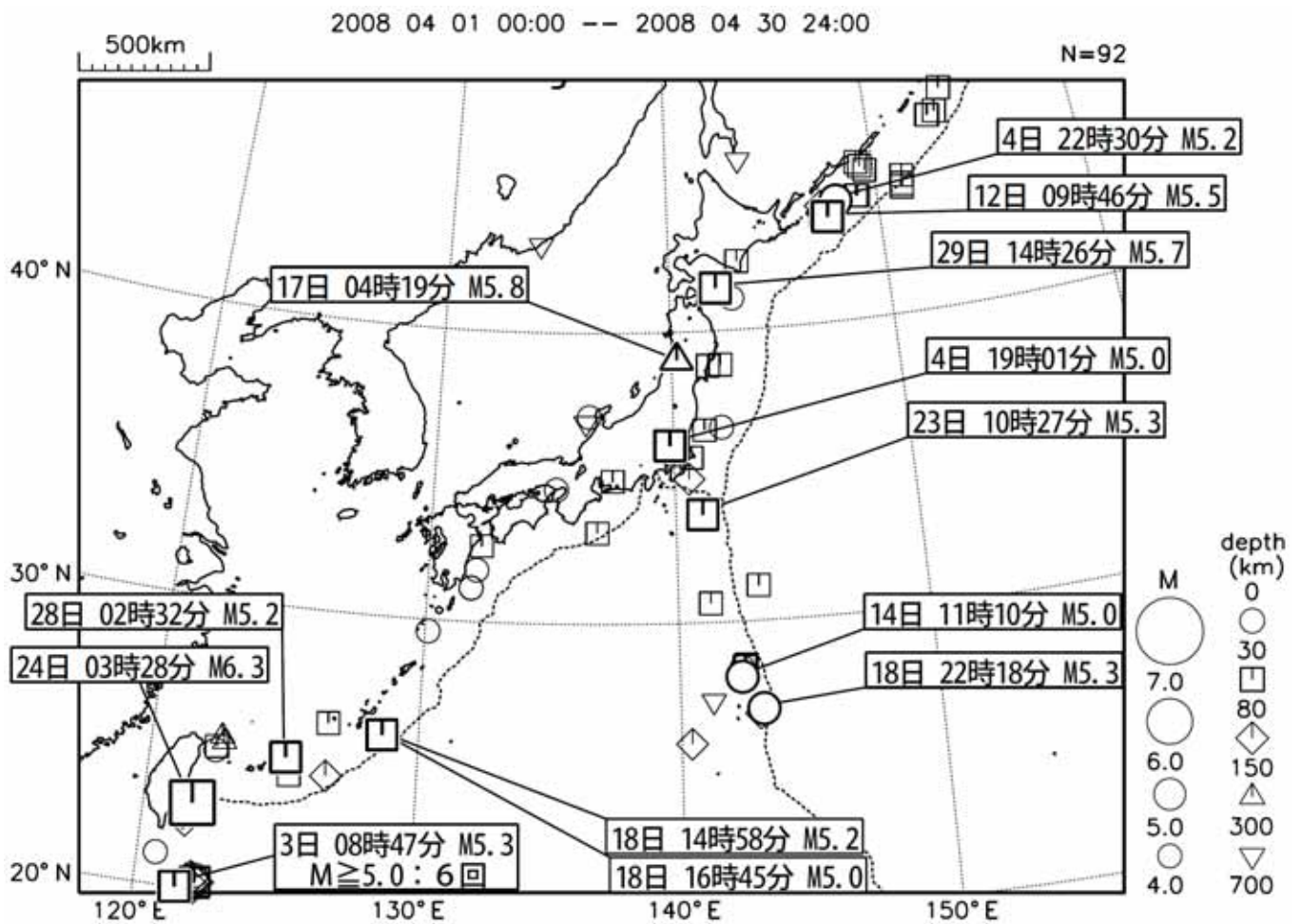
<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/2008/goudou0509.html>

注 3：気象庁の地震活動資料には、防災科学技術研究所や大学等関係機関のデータも使われています。

注 4：地震活動及び火山活動の詳細については、地震・火山月報(防災編)平成 20 年 4 月号（平成 20 年 5 月末頃に刊行及び気象庁ホームページ掲載予定）をご覧ください。

注 5：平成 20 年 5 月の地震活動及び火山活動については、平成 20 年 6 月 6 日に発表の予定です。

2008 年 4 月の全国の地震活動 (マグニチュード 4.0 以上)



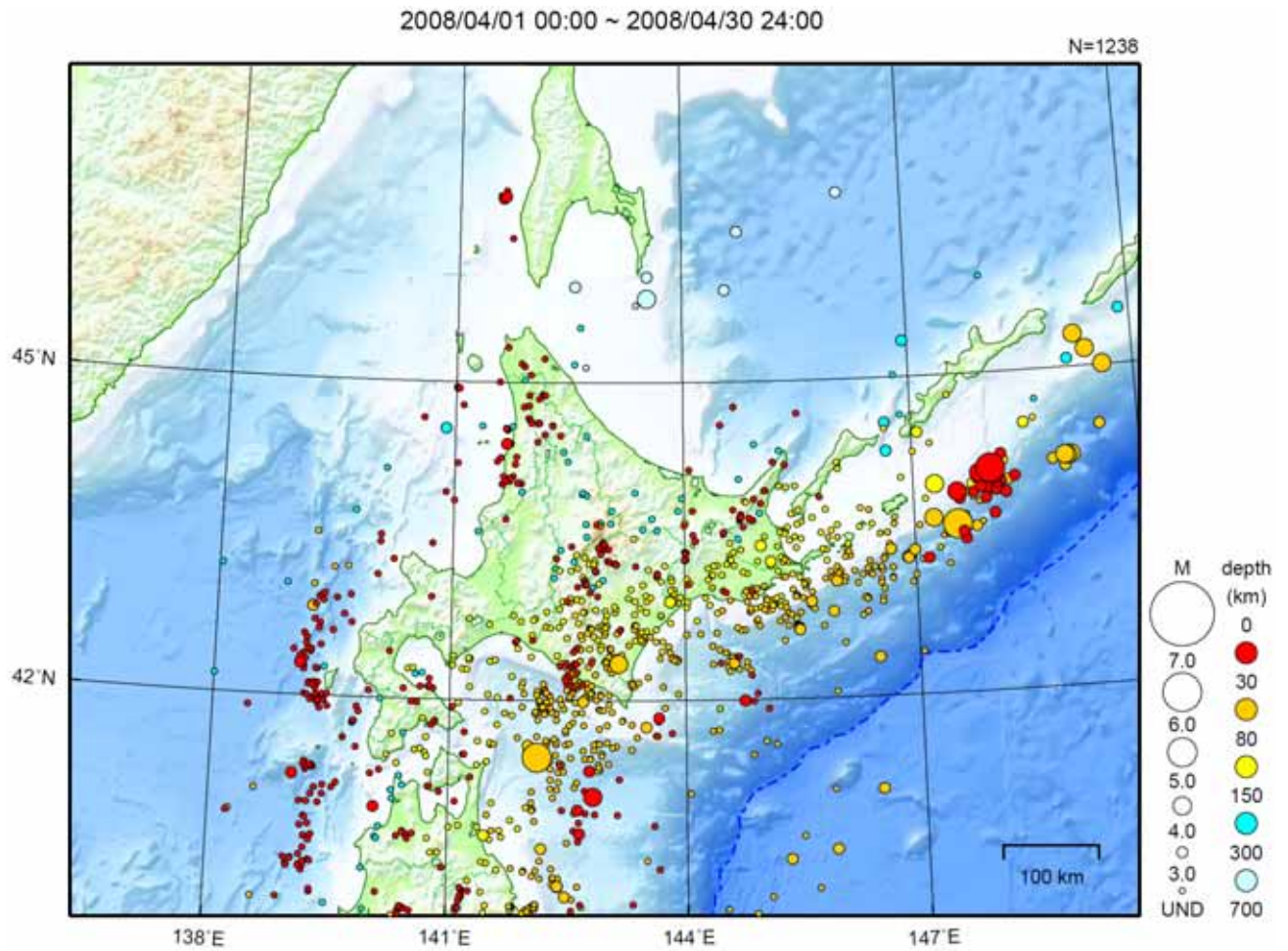
4 月 24 日に台湾付近で M6.3（国内で震度 1 以上の観測なし）の地震があった。

（上記期間外）

5 月 8 日に茨城県沖で M7.0（最大震度 5 弱）の地震があった。

[図中に日時分、マグニチュードを付した地震は M5.0 以上の地震、または M4.0 以上で最大震度 5 弱以上を観測した地震である。また、上に表記した地震は M6.0 以上、または M4.0 以上で最大震度 5 弱以上を観測した地震である。]

北海道地方



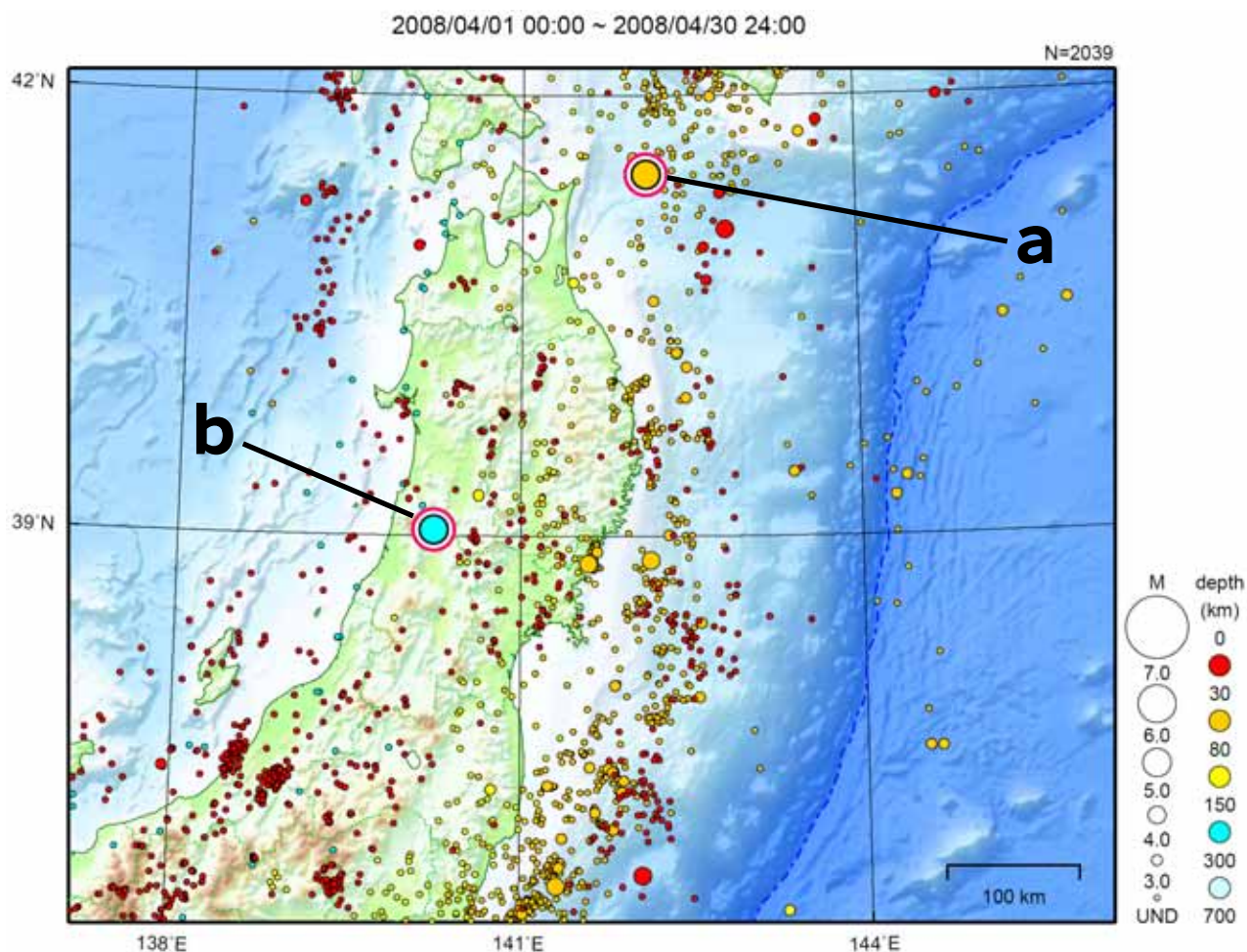
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

〔上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。〕

気象庁・文部科学省

東北地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

a) 4月29日に青森県東方沖で M5.7（最大震度4）の地震があった。

b) 4月17日に秋田・山形県境付近〔山形県最上地方〕で M5.8（最大震度4）の地震があった。

（上記期間外）

5月2日に福島県沖で M5.1（最大震度3）の地震があった。

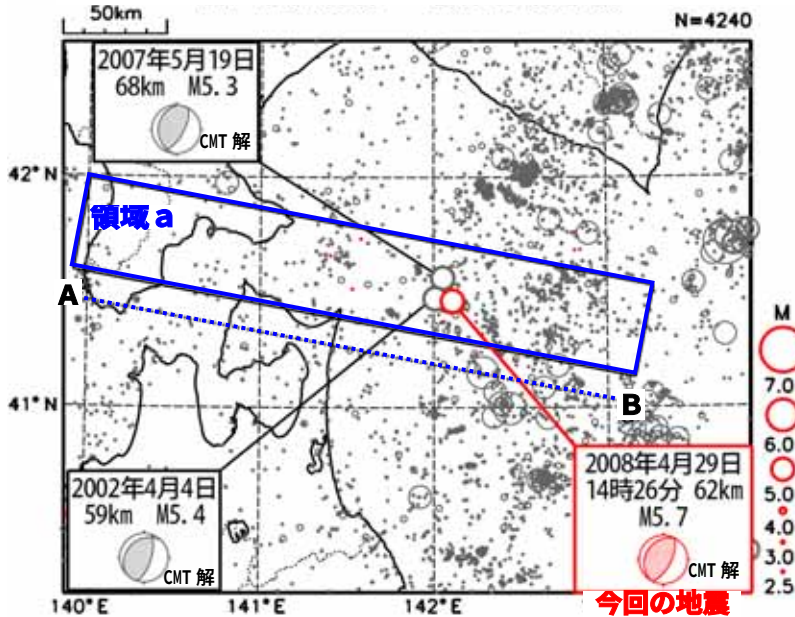
〔 〕は気象庁が情報発表に用いた震央地名

〔上述の地震は M6.0 以上または最大震度4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度3 以上のいずれかに該当する地震。〕

気象庁・文部科学省

4月29日 青森県東方沖の地震

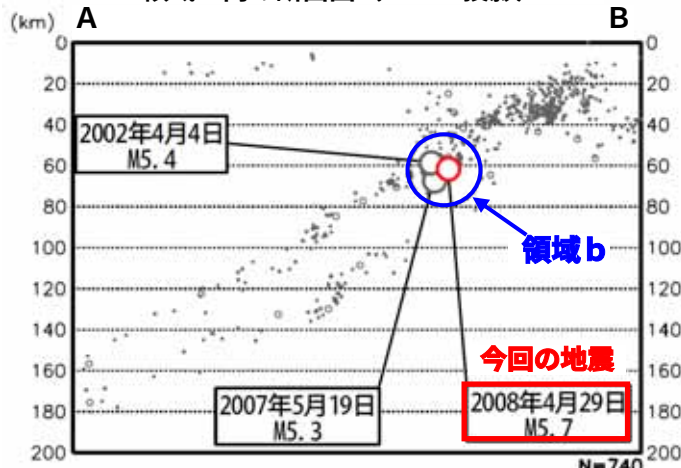
震央分布図（1997年10月以降、 $M \geq 2.5$ 、深さ200km以浅）



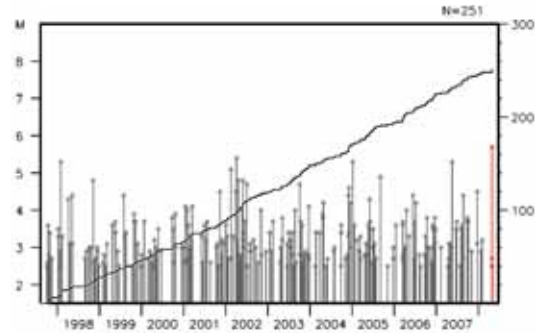
2008年4月29日14時26分に青森県東方沖で $M5.7$ （深さ62km、最大震度4）の地震が発生した。この地震は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。余震は2日程度でほぼ収まった。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域b）では2007年5月19日の $M5.3$ （深さ68km、最大震度4）など $M5$ を超える地震が時々発生している。

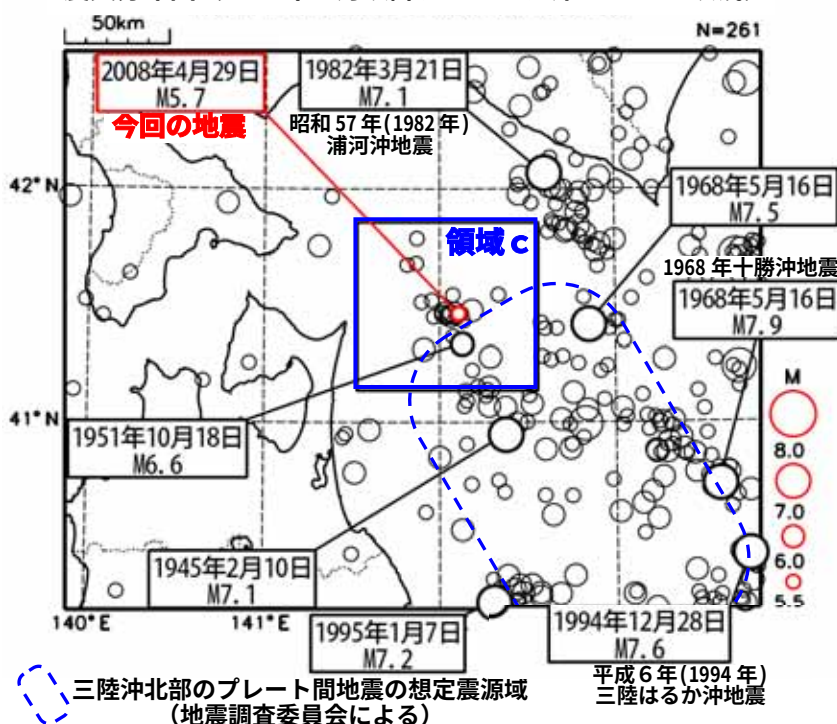
領域a内の断面図（A-B投影）



領域b内の回数積算図および地震活動経過図（ $M \geq 2.5$ ）

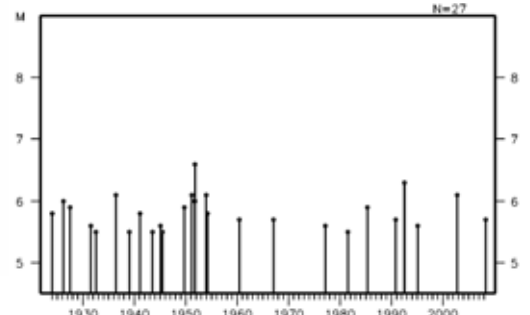


震央分布図（1923年8月以降、 $M \geq 5.5$ 、深さ200km以浅）



1923年8月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域c）では1951年10月18日に $M6.6$ の地震（最大震度4）など $M6$ クラスの地震が時々発生している。また、周辺では1968年の十勝沖地震（ $M7.9$ ）や1994年の三陸はるか沖地震（ $M7.6$ ）など $M7$ を超える地震が発生している。

領域c内の地震活動経過図

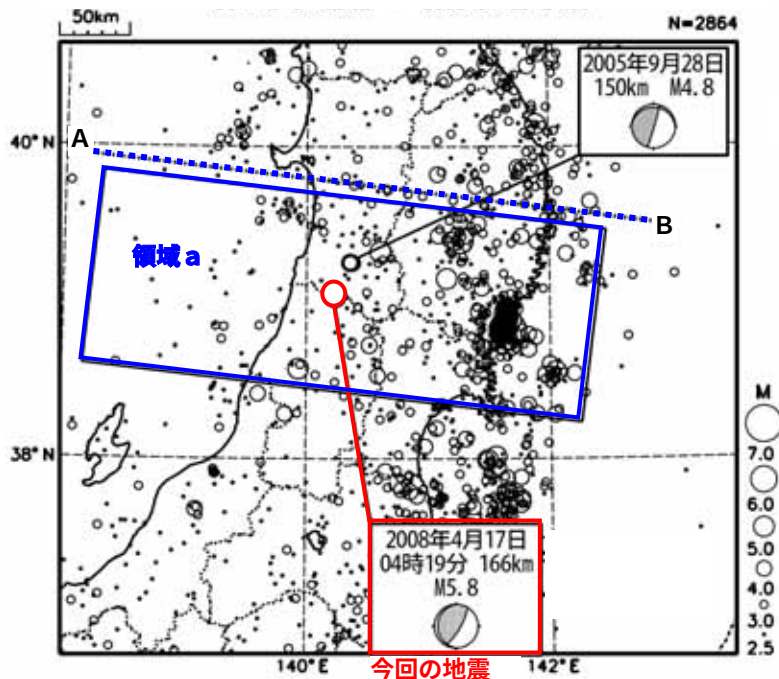


気象庁作成

4月17日 秋田・山形県境付近〔山形県最上地方〕の地震

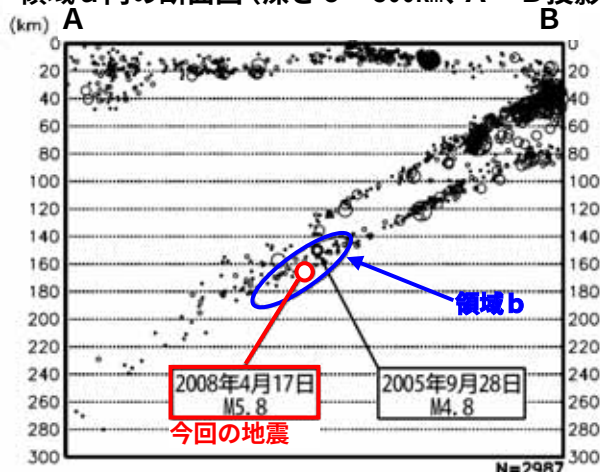
震央分布図(1997年10月以降、深さ60~300km、 $M \geq 2.5$)

()は気象庁が情報発表に用いた震央地名

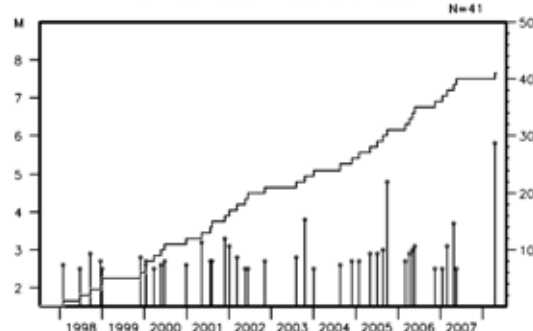


2008年4月17日04時19分に秋田・山形県境付近〔山形県最上地方〕の深さ166kmでM5.8（最大震度4）の地震が発生した。この地震の発震機構は太平洋プレートの沈み込む方向に張力軸を持つ形で、太平洋プレート内部（二重地震面の下面）で発生した地震である。1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域b）では2005年9月28日にM4.8（深さ150km、最大震度2）が発生しているものの、M5を超える地震は発生していなかった。

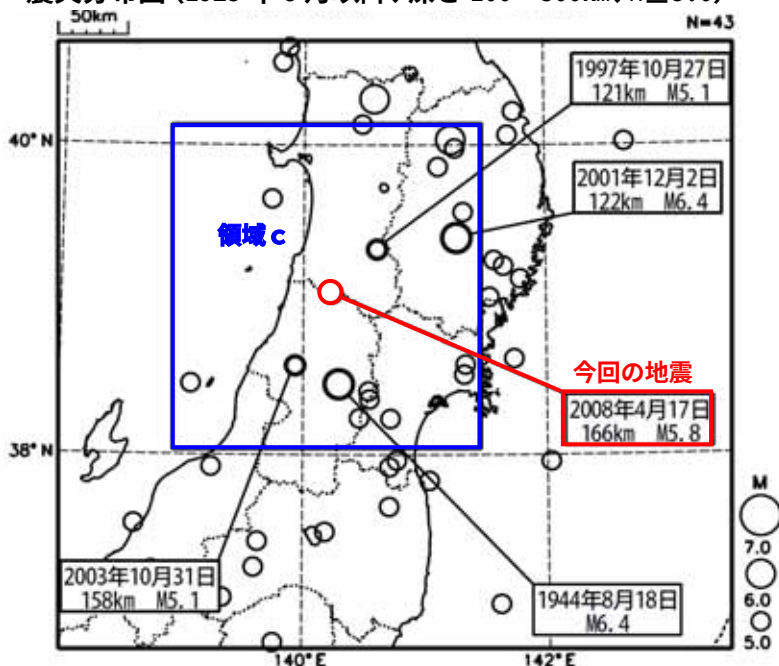
領域a内の断面図(深さ0~300km、A-B投影)



領域b内の地震活動経過図及び回数積算図

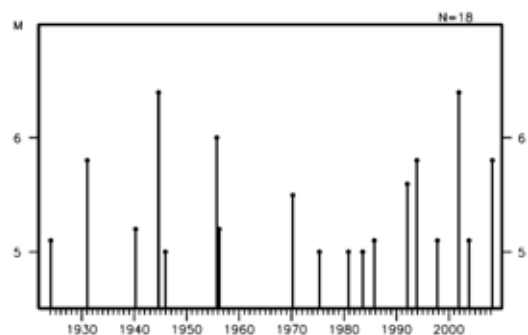


震央分布図(1923年8月以降、深さ100~300km、 $M \geq 5.0$)



1923年8月以降の活動を見ると、今回の地震の震源周辺（領域c）ではM5を超える地震が時々発生しており、最大は1944年8月18日の地震（最大震度3）及び2001年12月2日の地震（最大震度5弱）のM6.4の地震である。

領域c内の地震活動経過図

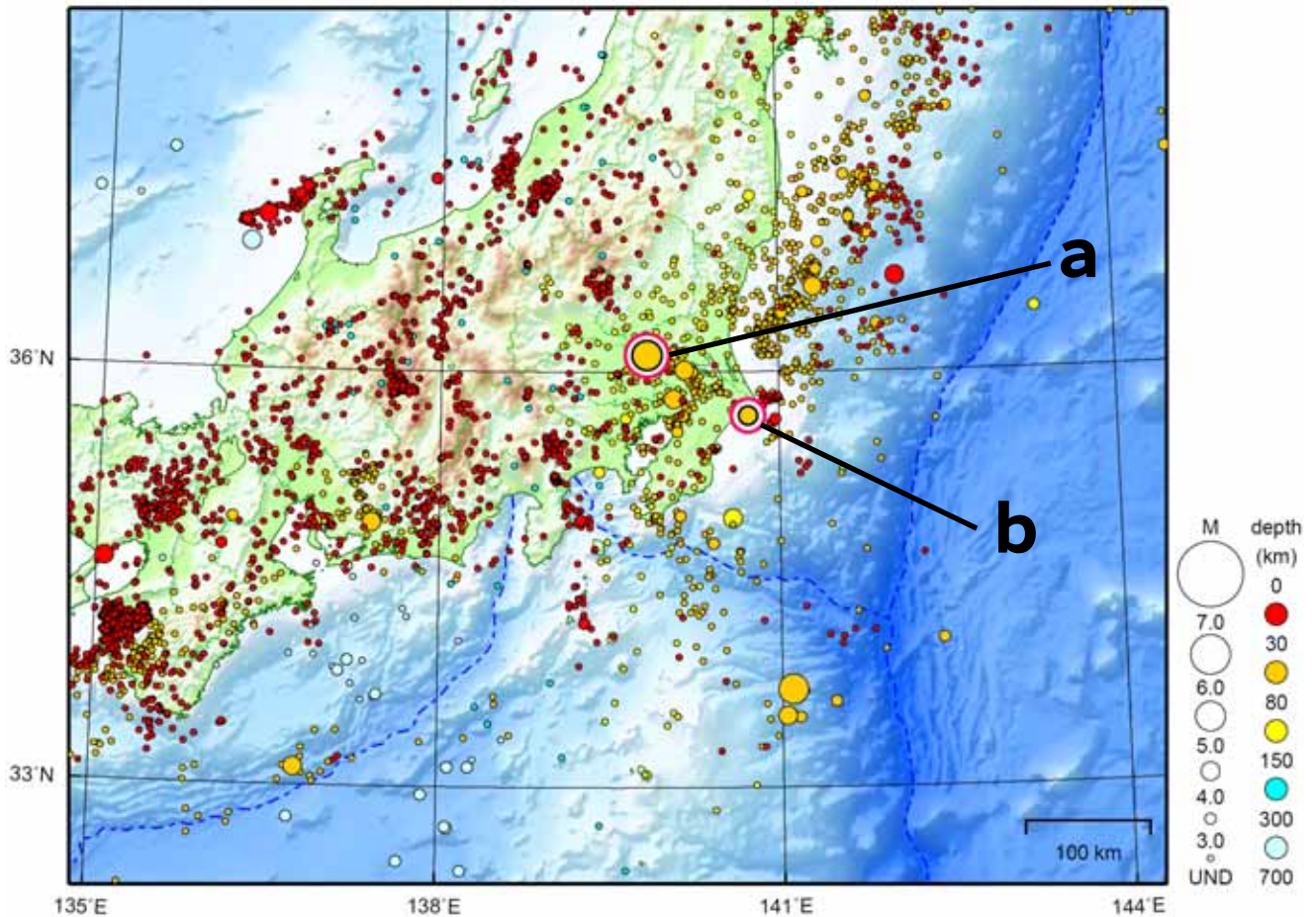


気象庁作成

関東・中部地方

2008/04/01 00:00 ~ 2008/04/30 24:00

N=4352



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

a) 4月4日に茨城県南部で M5.0 (最大震度4) の地震があった。

b) 4月25日に千葉県東方沖で M4.8 (最大震度3) の地震があった。

(上記期間外)

5月1日に千葉県東方沖で M4.6 (最大震度4) の地震があった。

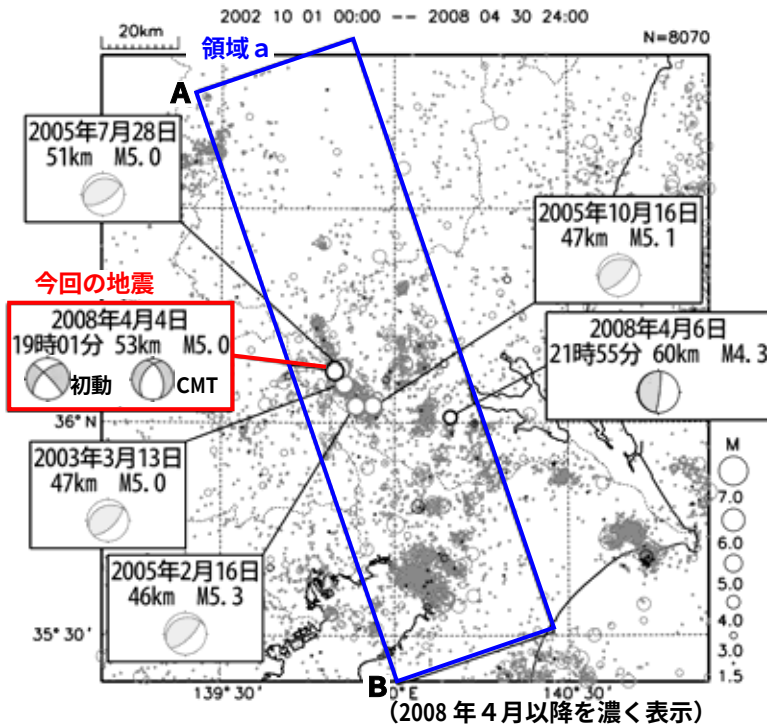
5月8日に茨城県沖で M7.0 (最大震度5弱) の地震があった。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度4以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度3以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

4月4日 茨城県南部の地震

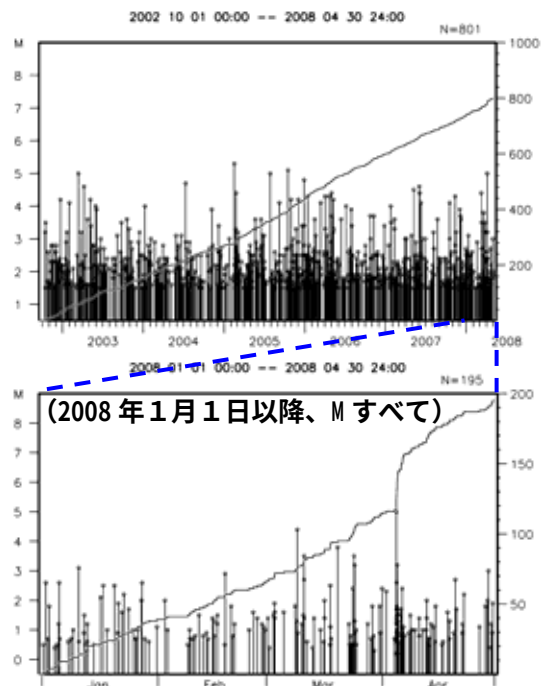
震央分布図 (2002 年 10 月以降、深さ 0~120km、 $M \geq 1.5$)



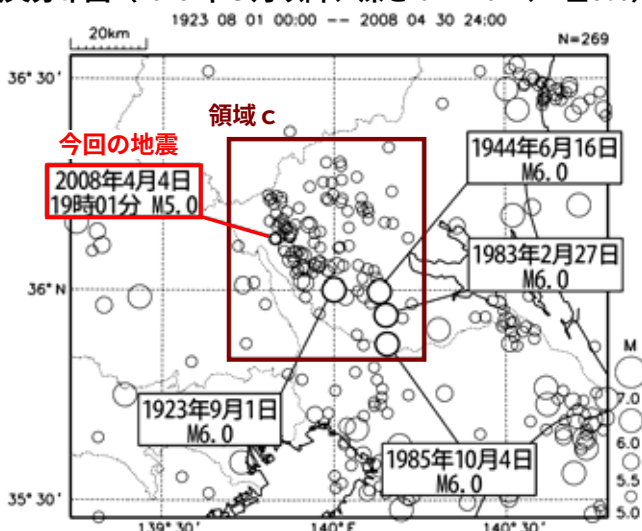
2008 年 4 月 4 日 19 時 01 分に茨城県南部の深さ 53km で $M5.0$ (最大震度 4) の地震が発生した。この地震はフィリピン海プレートの沈み込みに伴って発生した地震である。発震機構は東西方向に張力軸を持つ型であった。今回の地震の震源付近は地震活動の活発な領域 (領域b) が存在しており、2005 年 2 月 16 日に $M5.3$ (最大震度 5 弱) の地震が発生するなど $M4.0$ 以上の地震が度々観測されている。

なお、今回の地震の震央から東南東に約 30km 離れた場所で 4 月 6 日 21 時 55 分に $M4.3$ の地震が発生したが、6 日の地震はフィリピン海プレートと太平洋プレートの境界で発生した地震である。

領域b内の地震活動経過図、回数積算図

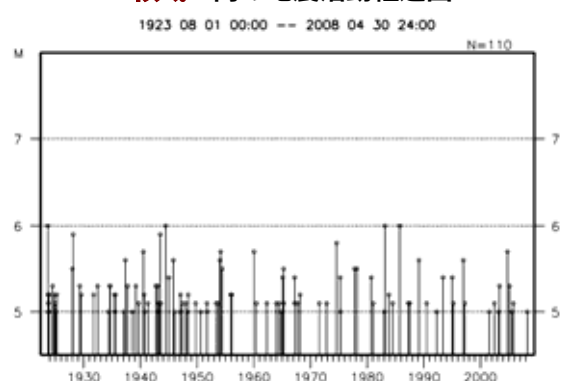


震央分布図 (1923 年 8 月以降、深さ 0~120km、 $M \geq 5.0$)



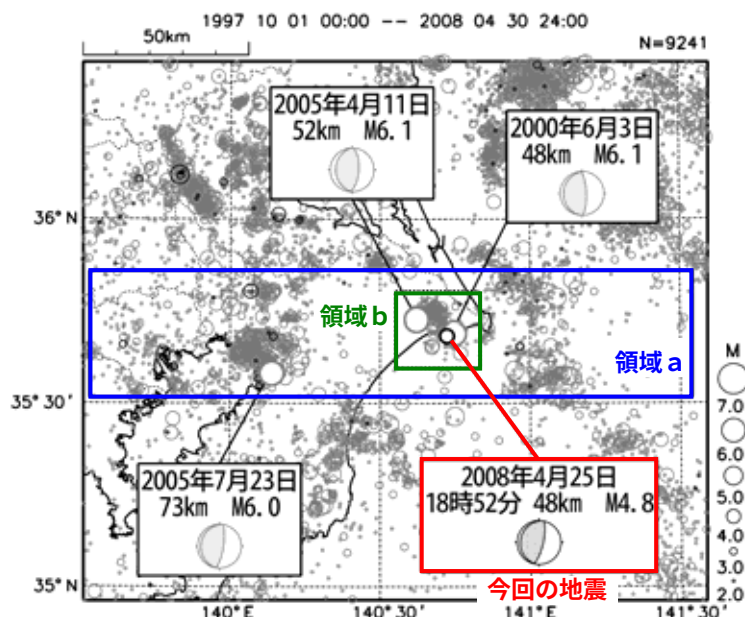
1923 年 8 月以降、今回の地震の震央付近 (領域c) では、 $M6$ 程度の地震が時々発生している。

領域c内の地震活動経過図

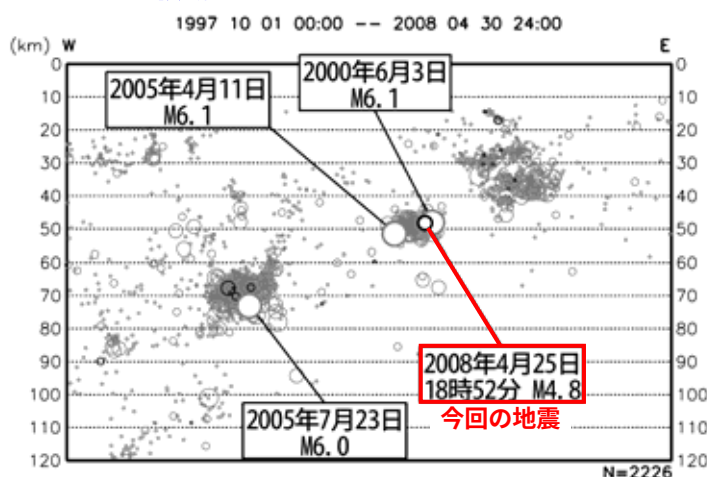


4月25日 千葉県東方沖の地震

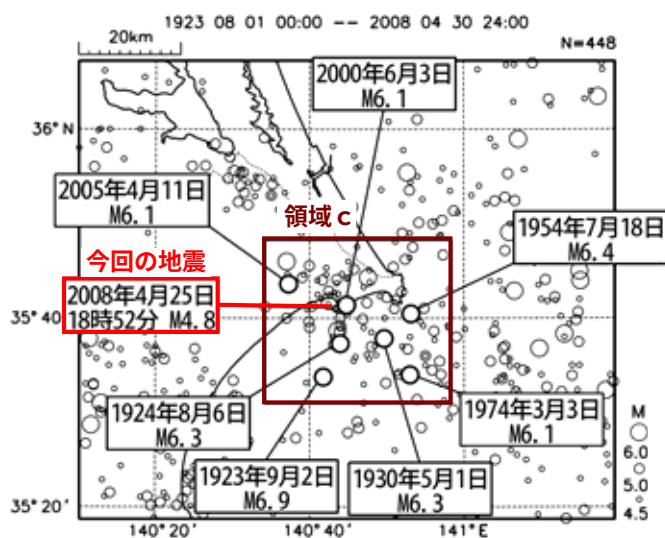
震央分布図 (1997年10月以降、深さ0~120km、 $M \geq 2.0$)
(2008年4月以降の地震を濃く表示)



領域a内の断面図 (東西方向投影)



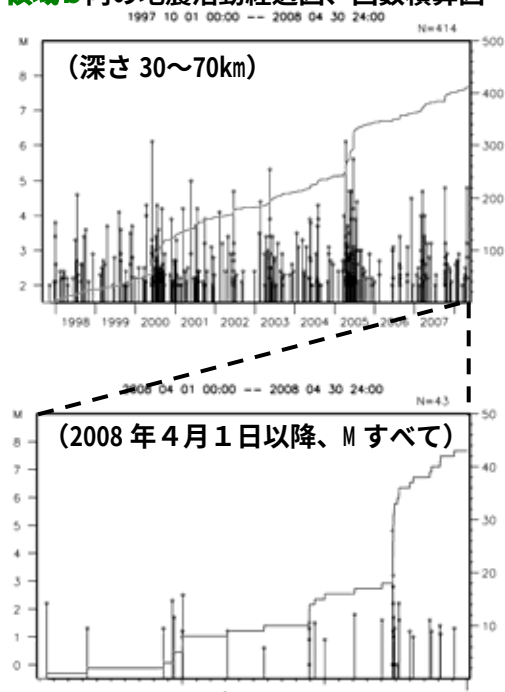
震央分布図 (1923年8月以降、深さ0~100km、 $M \geq 4.5$)



2008年4月25日18時52分に千葉県東方沖の深さ48kmでM4.8（最大震度3）の地震が発生した。この地震の発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと太平洋プレートの境界で発生した地震である。この地震の発生直後に小規模な地震活動が見られたが、26日以降落ち着きつつある。

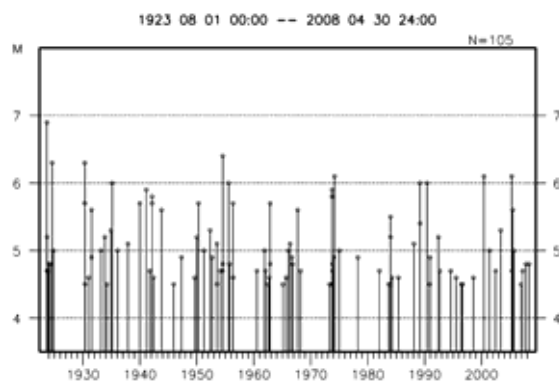
今回の地震の震源付近は活発な地震活動がみられるところで、最近では2005年4月11日にM6.1（最大震度5強）の地震が発生している。

領域b内の地震活動経過図、回数積算図



1923年8月以降の活動を見ると、M6.0以上の地震は時々発生しているが、M7.0以上の地震は発生していない

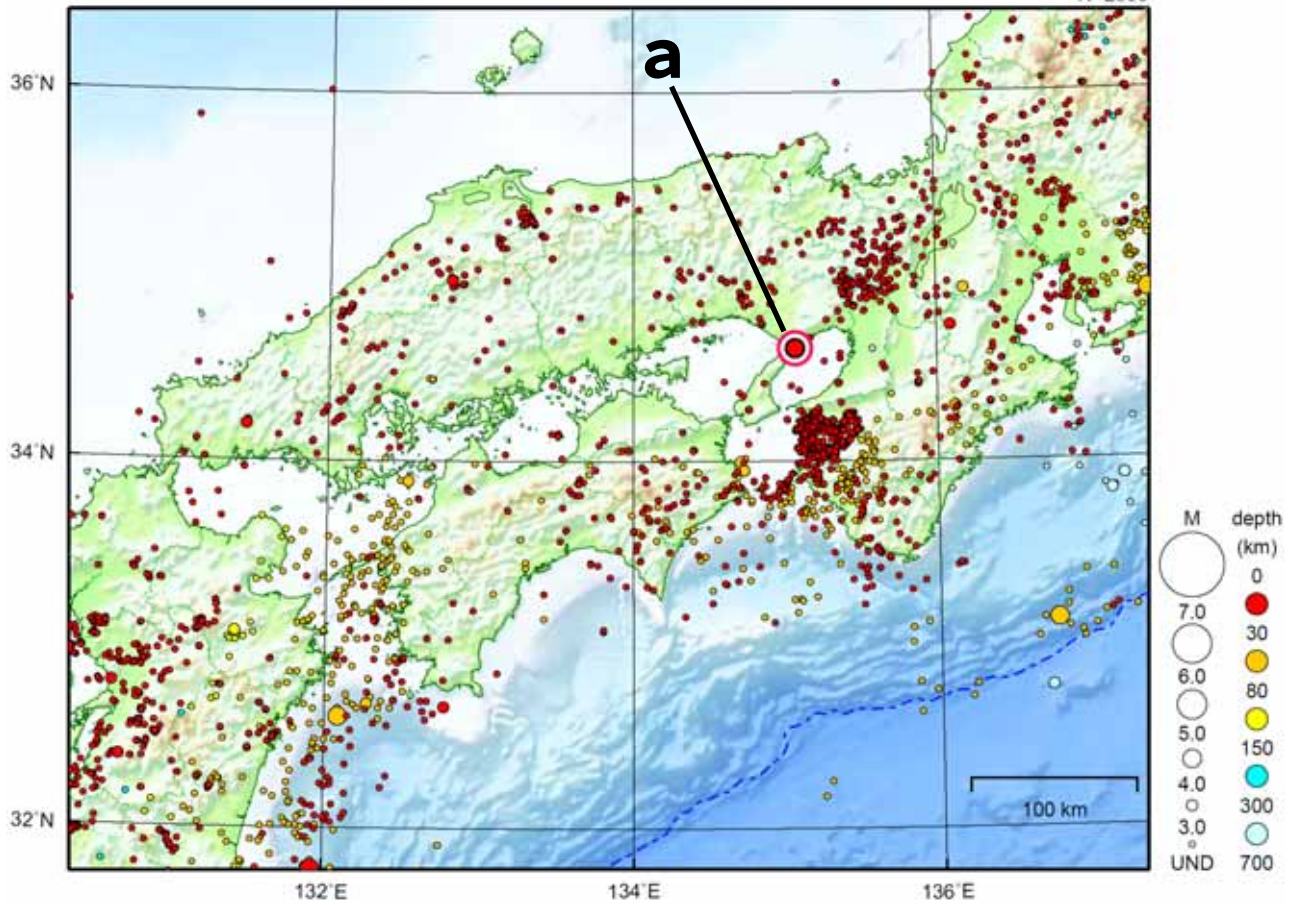
領域c内の地震活動経過図



近畿・中国・四国地方

2008/04/01 00:00 ~ 2008/04/30 24:00

N=2699



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

a) 4月17日に大阪湾で M4.1 (最大震度4) の地震があった。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度4以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度3以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

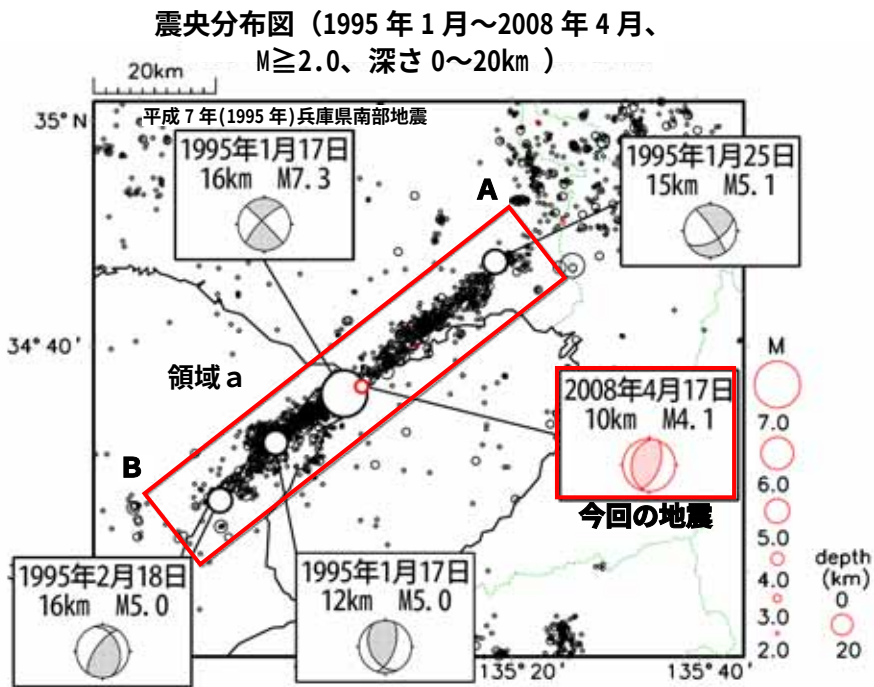
気象庁・文部科学省

4月17日 大阪湾の地震

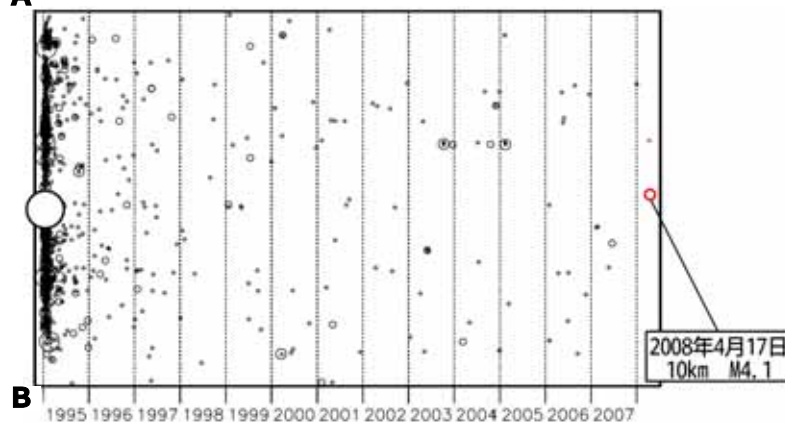
2008年4月17日0時58分に、大阪湾の深さ10kmでM4.1（最大震度4）の地震が発生した。

この地震は「平成7年(1995年)兵庫県南部地震」(M7.3)の余震で、発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。この発震機構は、東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型であった本震のものとは異なるが、逆断層型の余震はこれまでも発生している。

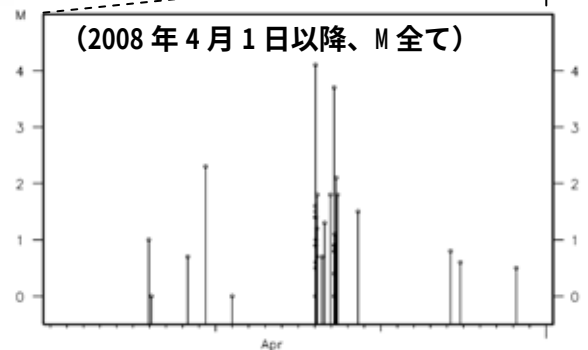
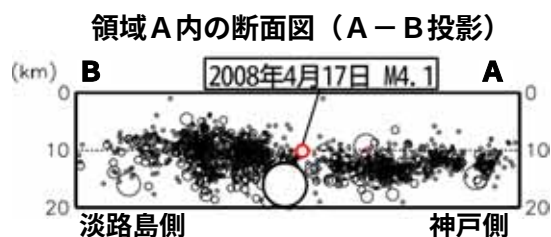
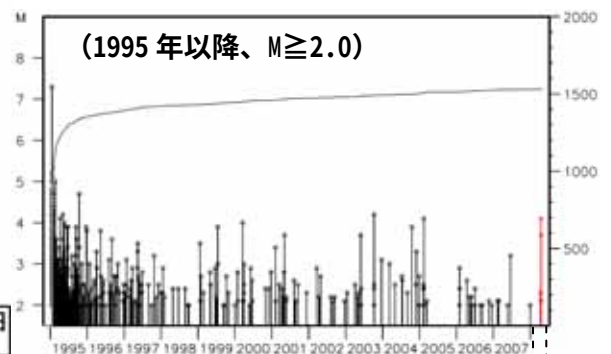
なお今回の地震発生以降で、余震域全体の活動に大きな変化はない。



A 領域a内の時空間分布図（A－B投影）

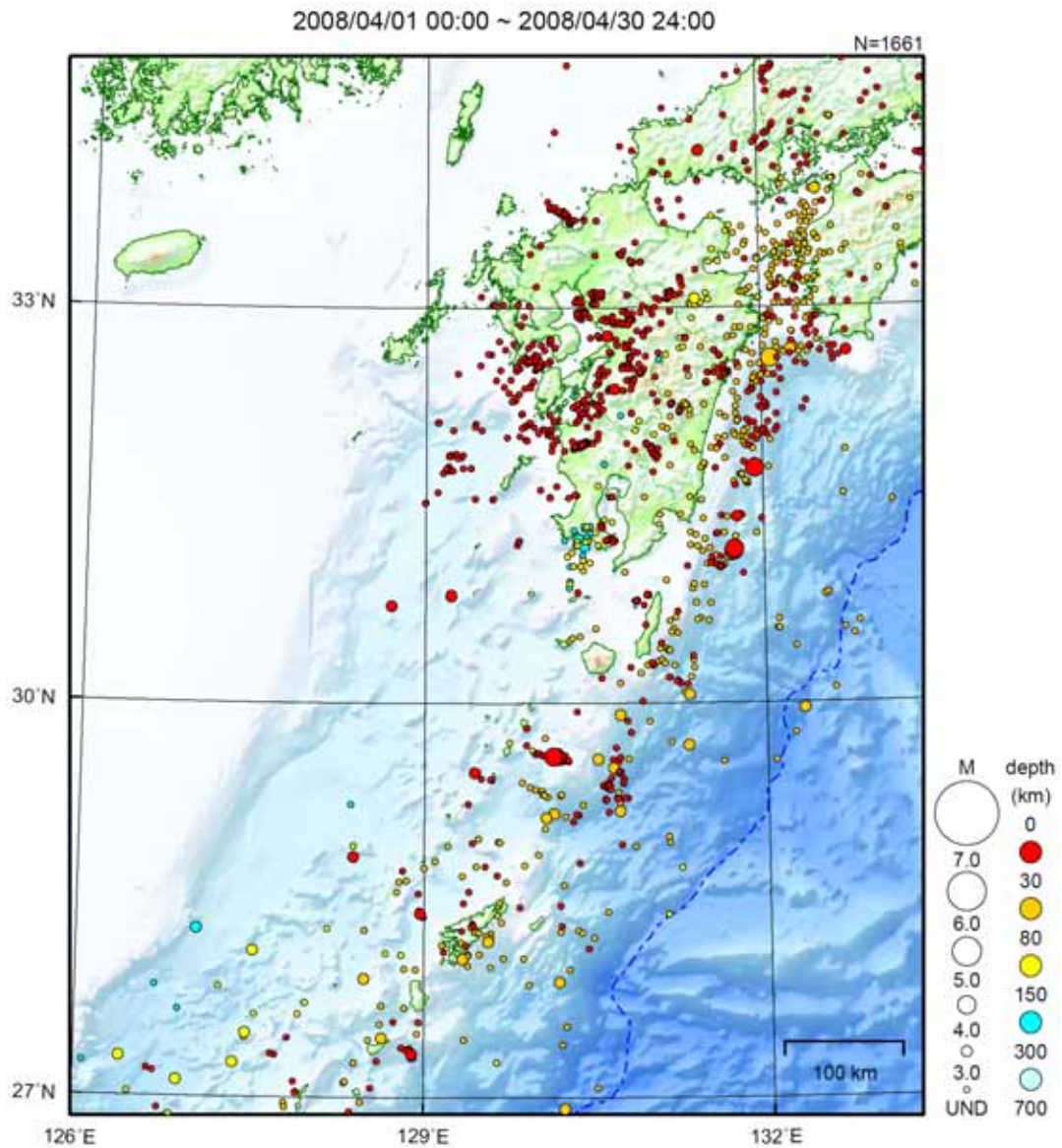


**領域a内の地震活動経過図
および回数積算図**



気象庁作成

九州地方



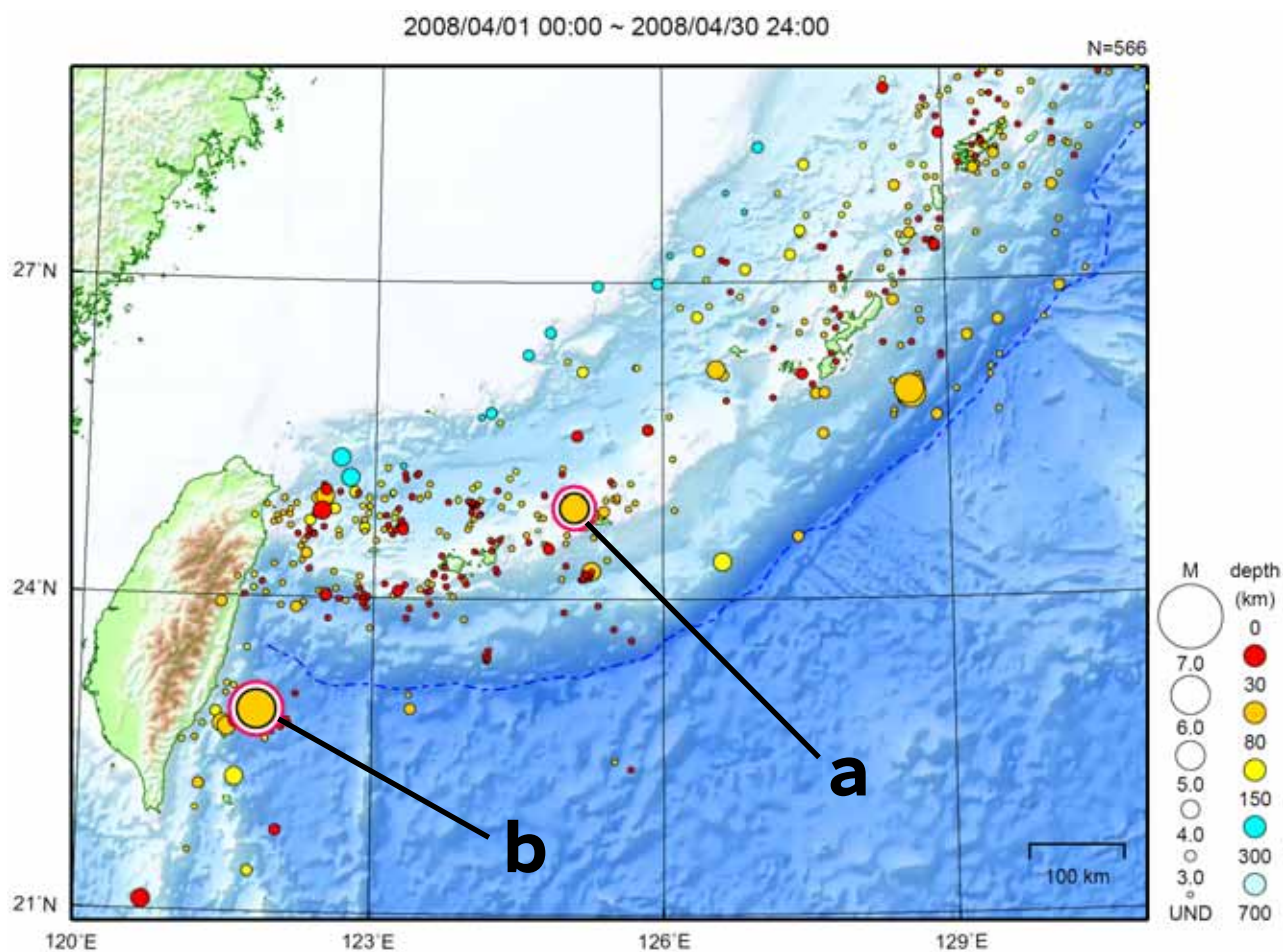
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

沖縄地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

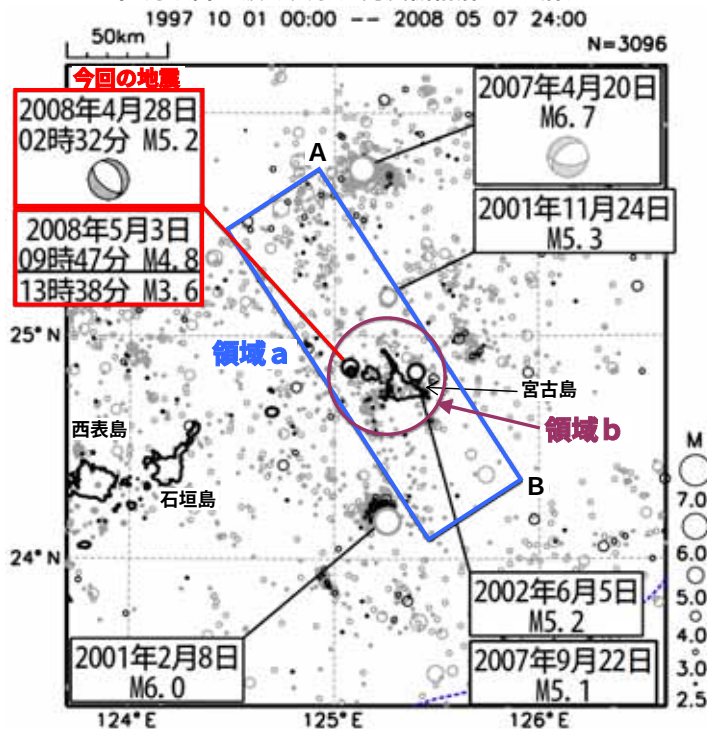
- a) 4月28日に宮古島近海で M5.2 (最大震度4) の地震があった。
- b) 4月24日に台湾付近で M6.3 (国内で震度1以上の観測なし) の地震があった。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度4以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度3以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

4月28日 宮古島近海の地震

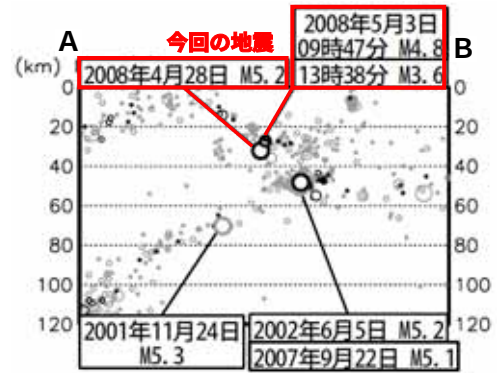
震央分布図（1997年10月以降、深さ0～120km、 $M \geq 2.5$ ）
2007年5月以降を濃く表示。発震機構解はCMT解。



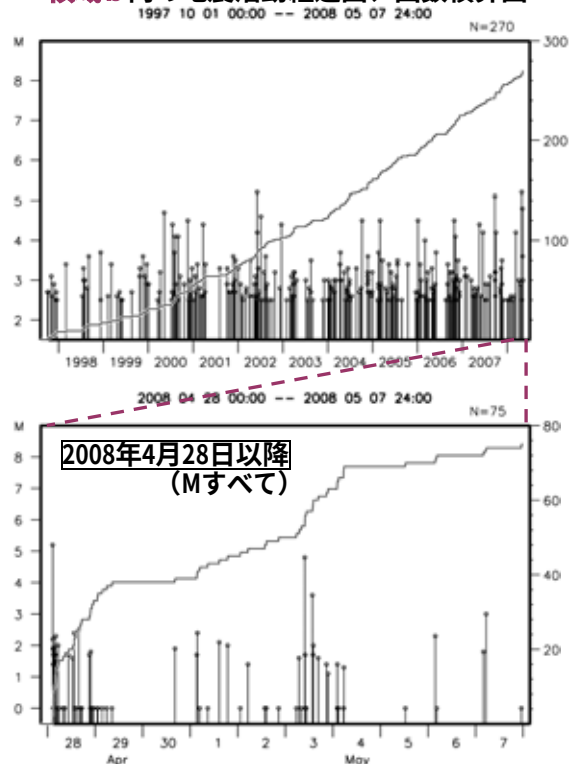
2008年4月28日02時32分に宮古島近海でM5.2（最大震度4）の地震が発生した。発震機構（CMT解）は、北東－南西方向に張力軸を持つ正断層型で、地殻内で発生した地震と考えられる。さらに、この地震発生から5日後の5月3日09時47分にM4.8（最大震度3）、13時38分にM3.6（最大震度1）の地震が発生した。

宮古島の近傍（領域b）では、1997年10月以降、2002年6月5日にM5.2、2007年9月22日にM5.1（共に最大震度3）の地震が発生しているが、M6以上の地震は観測されていない。

領域a内の断面図（A－B投影）

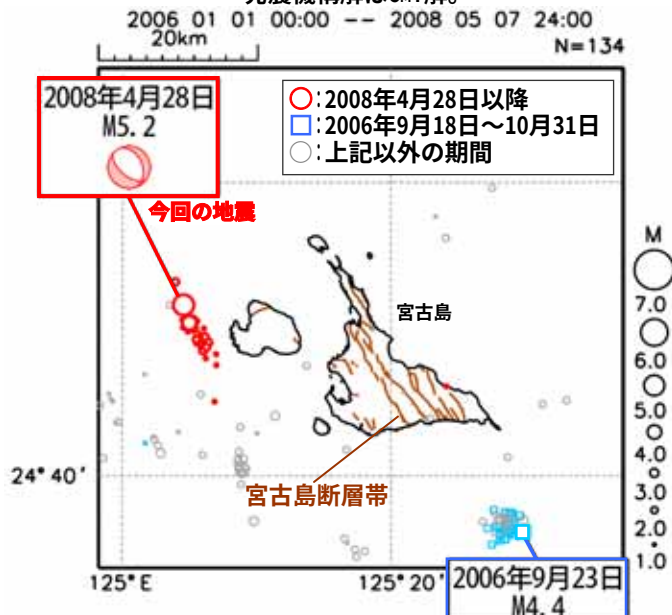


領域b内の地震活動経過図、回数積算図

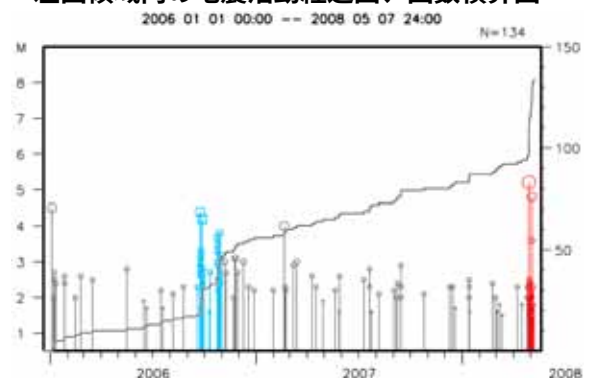


震央分布図（2006年以降、深さ35km以浅、 $M \geq 1.0$ ）

発震機構解はCMT解。



左図領域内の地震活動経過図、回数積算図

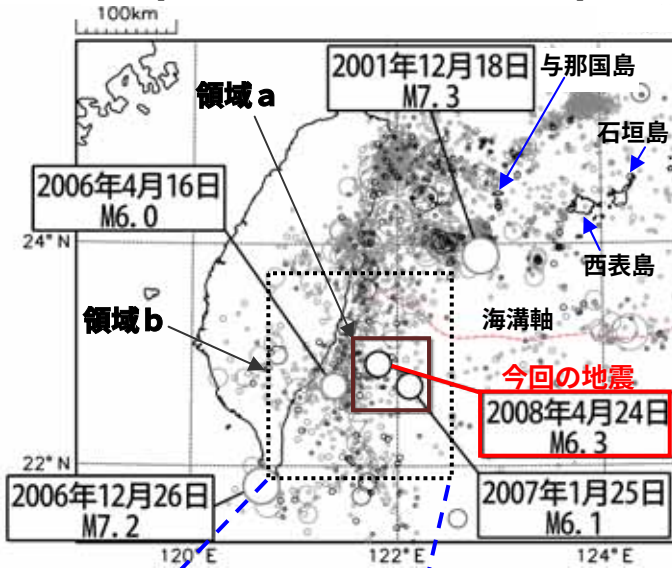


今回の地震活動の震央分布は北北西－南南東方向に延びており、宮古島断層帯の走向と調和的である。宮古島の近傍で活発な地震活動が発生したのは、島の南東側で2006年9月から同年末にかけてM4.4（2006年9月23日）を最大とする活動があって以来である。

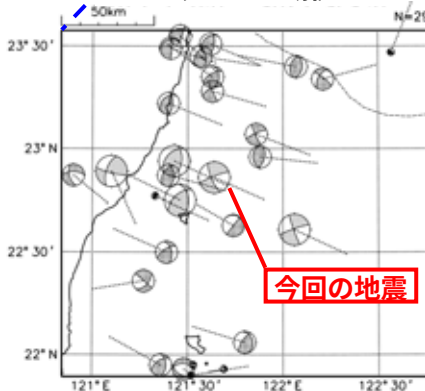
4月24日 台湾付近の地震

震央分布図

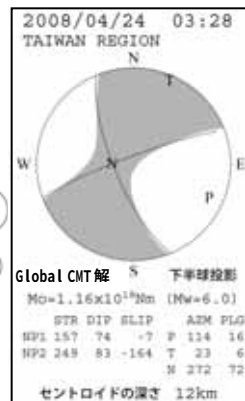
(2000年1月以降、 $M \geq 3.0$ 、深さ100km以浅)
[2007年1月以降の地震を濃く表示]



上記領域b内の発震機構解 (Global CMT 解)



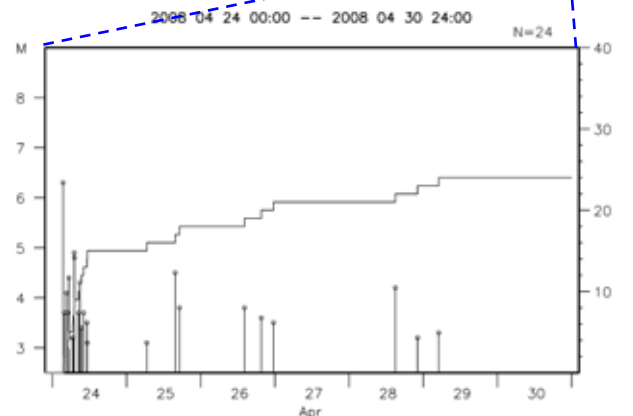
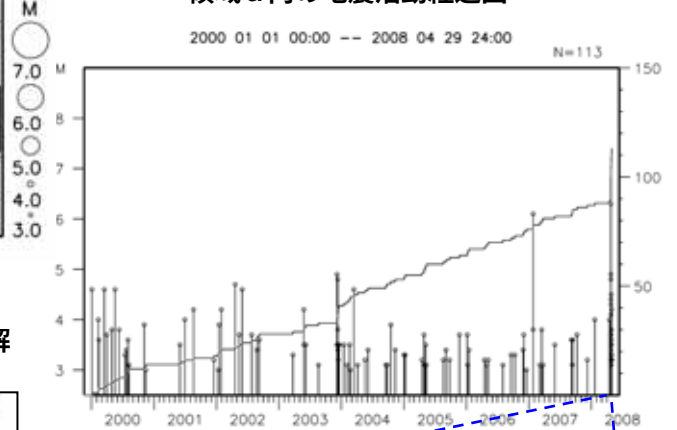
今回の地震の発震機構解 (Global CMT 解)



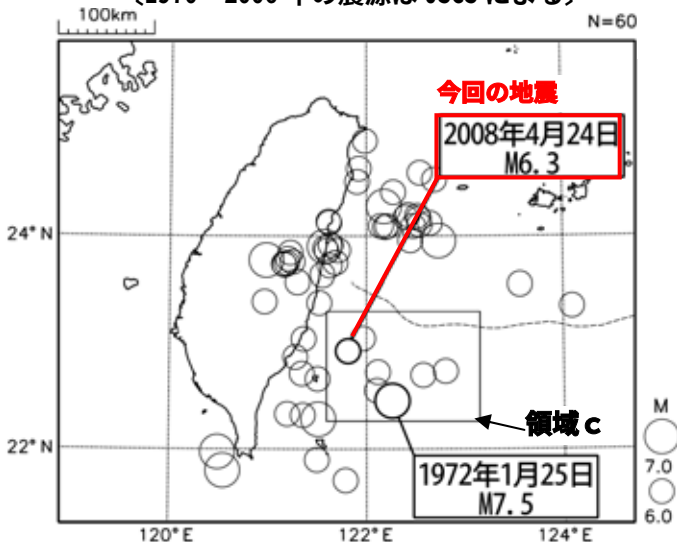
2008年4月24日03時28分に台湾付近で M6.3 の地震が発生した。発震機構 (Global CMT 解) は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、圧力軸の方向は周辺の地震の発震機構と調和的である。

この付近では2007年1月25日に、M6.1の地震が発生している。

領域a内の地震活動経過図

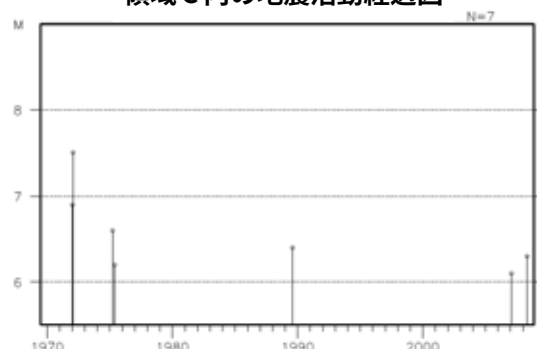


震央分布図
(1970年以降、 $M \geq 6.0$ 、深さ200km以浅)
[1970~2006年の震源はUSGSによる]



1970年以降、この付近 (領域c) ではM6.0を超える地震が7回観測されている。最大は1972年1月25日に発生した M7.5 の地震 (最大震度3) で、この地震により死者1名の被害を生じた (「宇津の世界の被害地震の表」による)。またこの地震により津波が発生し、石垣島で5cmの津波を観測している。

領域c内の地震活動経過図



●東海地震の想定震源域及びその周辺の地震活動

[概況]

愛知県西部のフィリピン海プレート内で M4.3 の地震が発生した。

[地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果]

4月28日に気象庁において第263回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会(定例会)を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表した(図2～図7)。

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

全般的には顕著な地震活動はありません。静岡県中部では、プレート内で通常より活動レベルが低く、地殻内は活発な状態になっていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。

東海地域及びその周辺の地殻変動には注目すべき特別な変化は観測されていません。

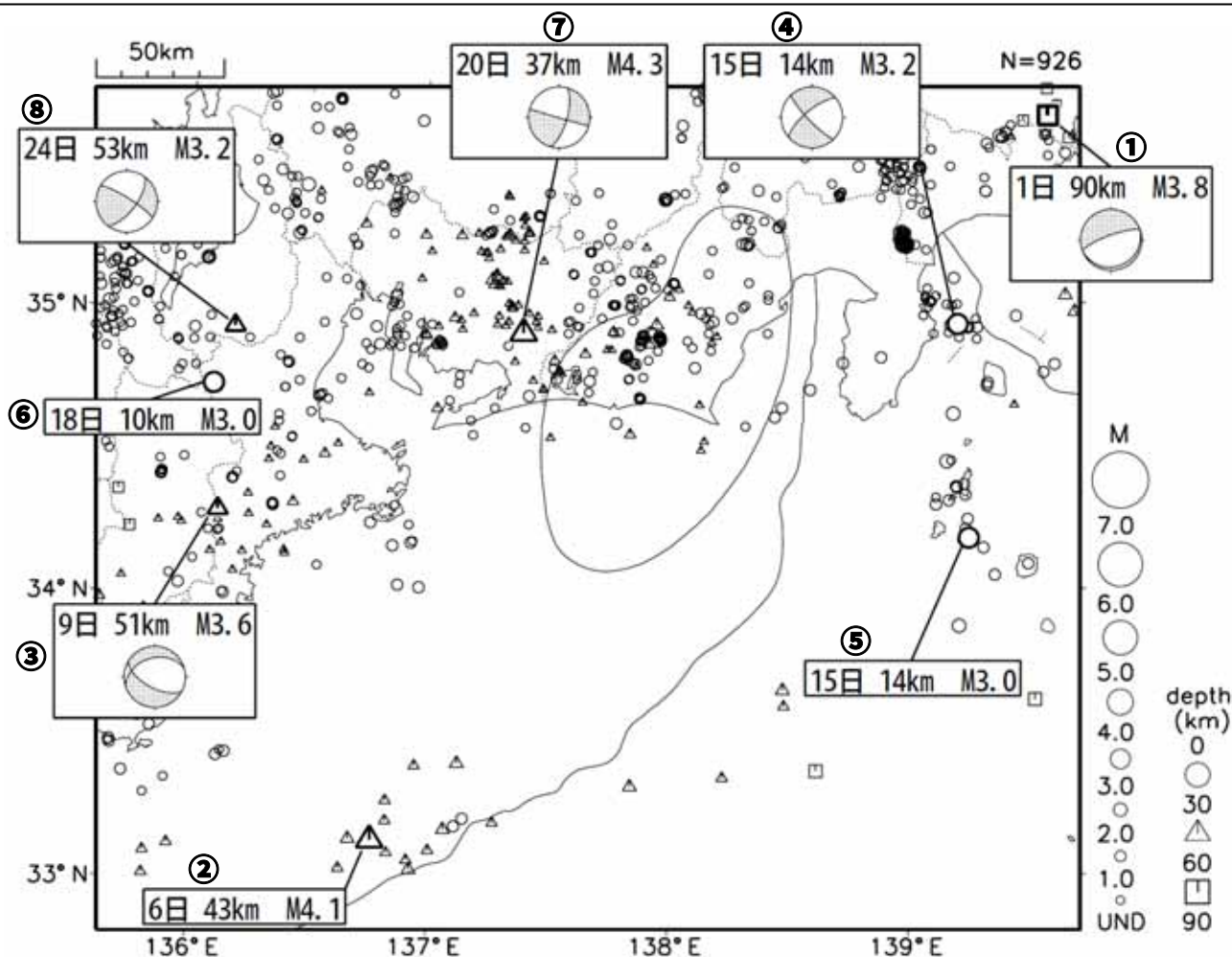


図1 震央分布図(2008年4月1日～30日:深さ0～90km、Mすべて。M3.0以上の地震に「日、深さ、M」を付けた。その下の図はP波初動による発震機構(下半球投影)。図中のナス型の領域は東海地震の想定震源域。)

- ① 1日14時48分、東京都23区の深さ90kmでM3.8の地震があり、最大震度1を観測した。発震機構は北北西-南南東方向に圧力軸を持つ型で、太平洋プレートの沈み込みに伴う地震である。
- ② 6日01時50分、三重県南東沖の深さ43kmでM4.1の地震が発生した。この地震は、2004年9月5日に東海道沖(紀伊半島南東沖)で発

- 生したM7.4の地震の余震域内で発生した(平成16年9月地震・火山月報(防災編)を参照)。
- ③ 9日04時47分、奈良県の深さ51kmでM3.6の地震があり、最大震度2を観測した。発震機構は南北方向に張力軸を持つ正断層型で、フィリピン海プレート内で発生した地震である。
- ④ 15日01時27分、伊豆半島東方沖の深さ14km

で M3.2 の地震があり、最大震度 1 を観測した。発震機構は東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型であった。

- ⑤ 15 日 04 時 04 分、新島・神津島近海の深さ 14km で M3.0 の地震があり、最大震度 1 を観測した。
- ⑥ 18 日 15 時 39 分、三重県中部の深さ 10km で M3.0 の地震があり、最大震度 2 を観測した。陸域の地殻内で発生した地震である。
- ⑦ 20 日 01 時 00 分、愛知県西部の深さ 37km で M4.3 の地震があり、最大震度 3 を観測した。発震機構は東北東－西南西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、フィリピン海プレート内

で発生した地震である。この地震の直後から、震源の北西側で低周波地震活動があったが、1 時間ほどで収まった。

- ⑧ 24 日 12 時 45 分、滋賀県南部の深さ 53km で M3.2 の地震があり、最大震度 1 を観測した。発震機構は東北東－西南西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、フィリピン海プレート内で発生した地震である。

注：本文中の番号は、図 1 中の数字に対応する。

[東海地域の地震活動の頁で使われる用語]

・「想定震源域」(図 1) と「固着域」(図 4～図 6)

東海地震発生時には、「固着域」(プレート間が強く「くっついている」と考えられている領域)あるいはその周辺の一部からゆっくりしたずれ(前兆すべり)が始まり、最終的には「想定震源域」全体が破壊すると考えられている。

・「クラスタ」、「クラスタ除去」(図 4～図 7)

地震は時間空間的に群(クラスタ: cluster)をなして起きることが多くある。「本震とその後に起きる余震」、「群発地震」などが典型的なクラスタで、余震活動等の影響を取り除いて地震活動全体の推移を見ることを「クラスタ除去」と言う。相互の震央間の距離が 3 km 以内で、相互の発生時間差が 7 日以内の地震群をクラスタとして扱い、その中の最大の地震をクラスタに含まれる地震の代表とし、地震が 1 つ発生したと扱う。

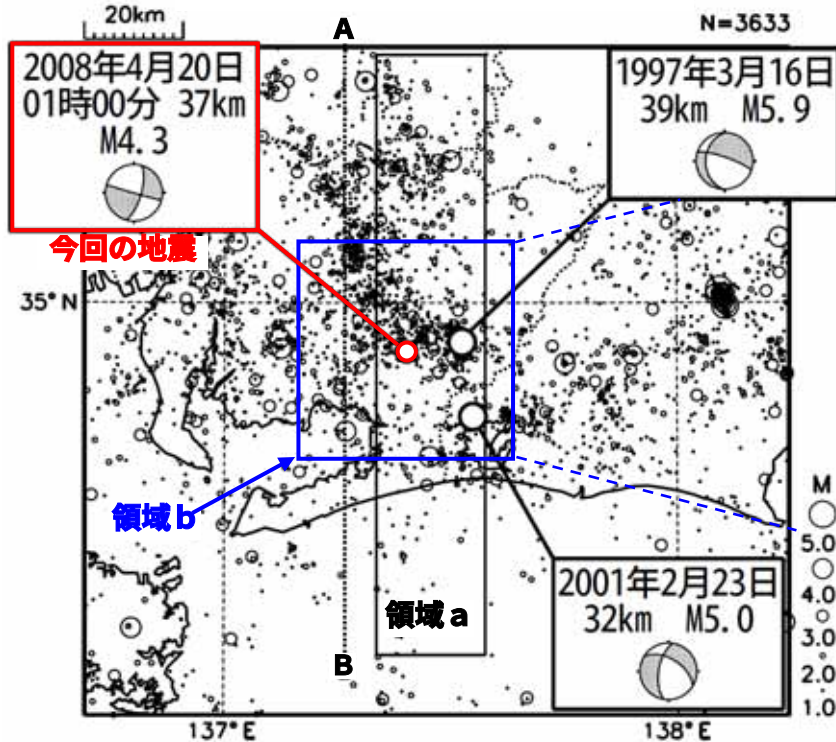
大規模な地震から国民の生命・財産を保護することを目的として、昭和 53 年(1978 年)12 月に施行された「大規模地震対策特別措置法」では、大規模な地震の発生のおそれがあり、その地震によって大きな被害が予想されるような地域をあらかじめ「地震防災対策強化地域(以下、「強化地域」という。))として指定し、地震予知のための観測施設の整備を強化し、あらかじめ地震防災に関する計画をたてる等、各種の措置を講じることとしている。強化地域は平成 14 年(2002 年)4 月に見直しが行われ、現在、静岡県全域と東京都、神奈川・山梨・長野・岐阜・愛知及び三重の各県にまたがる 170 市町村(平成 20 年 4 月現在)が強化地域に指定されている。強化地域では、マグニチュード 8 クラスと想定されている大地震(東海地震)が起こった場合、震度 6 弱以上(一部地域では震度 5 強程度)になり、沿岸では大津波の来襲が予想されている。気象庁では、東海地震の直前の前兆すべりが発生した場合に、これを捉えるため、地震、地殻変動等の観測データを常時監視している。

4月20日 愛知県西部の地震

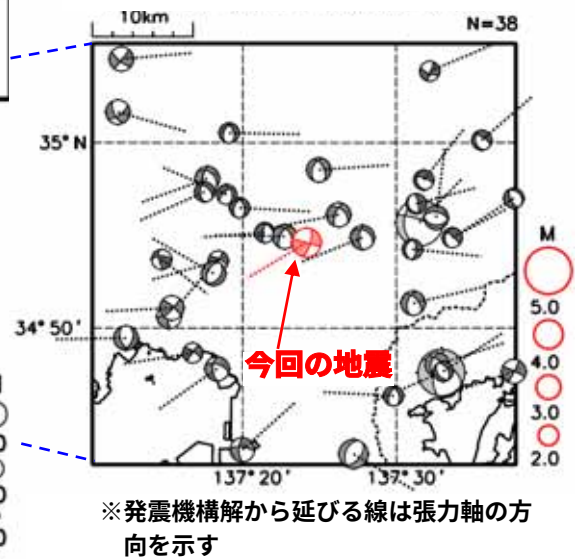
2008年4月20日01時00分に、愛知県西部の深さ37kmでM4.3（最大震度3）の地震が発生した。発震機構は、東北東－西南西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、フィリピン海プレート内部で発生した地震である。活動はその日のうちにほぼ収まった。

1997年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近では1997年3月16日にM5.9（最大震度5強）が発生したほか、M4程度の地震も時々発生している。

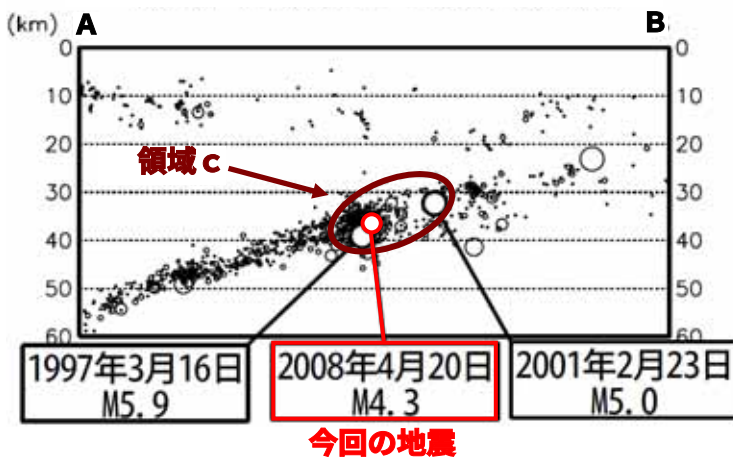
震央分布図（1997年1月以降、深さ25～60km、 $M \geq 1.0$ ）



領域b内の発震機構分布図



領域a内の断面図（深さ0～60km、A－B投影）



領域c内の地震活動経過図、回数積算図

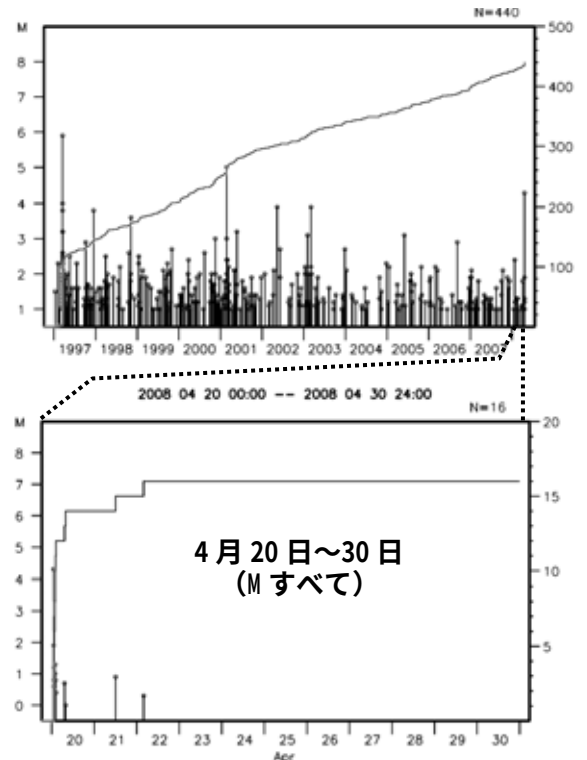
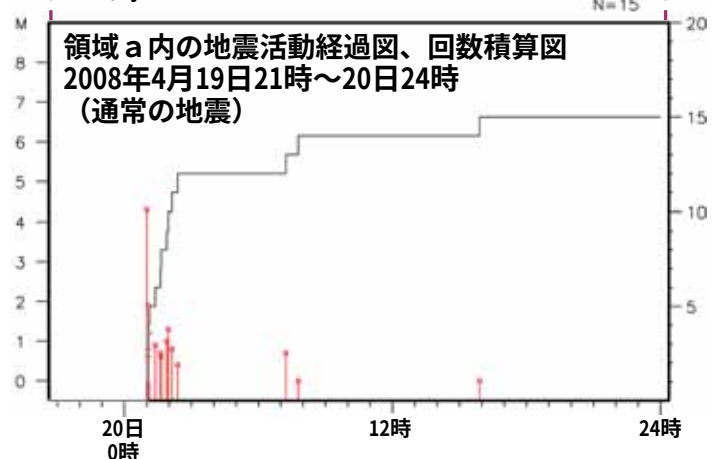
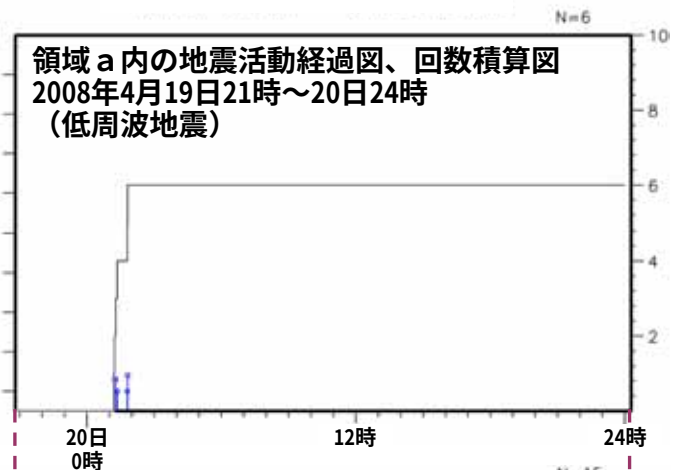
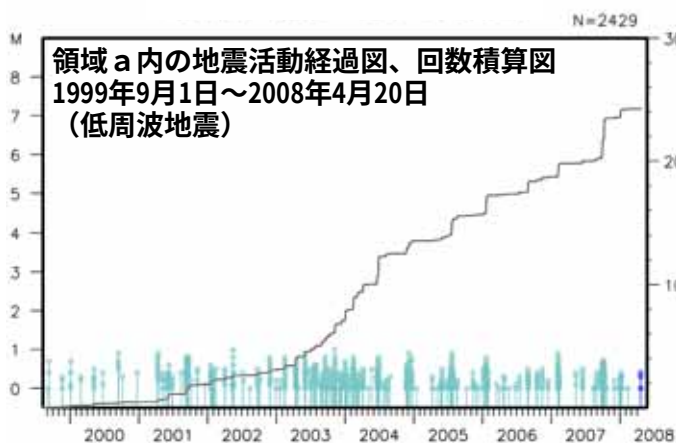
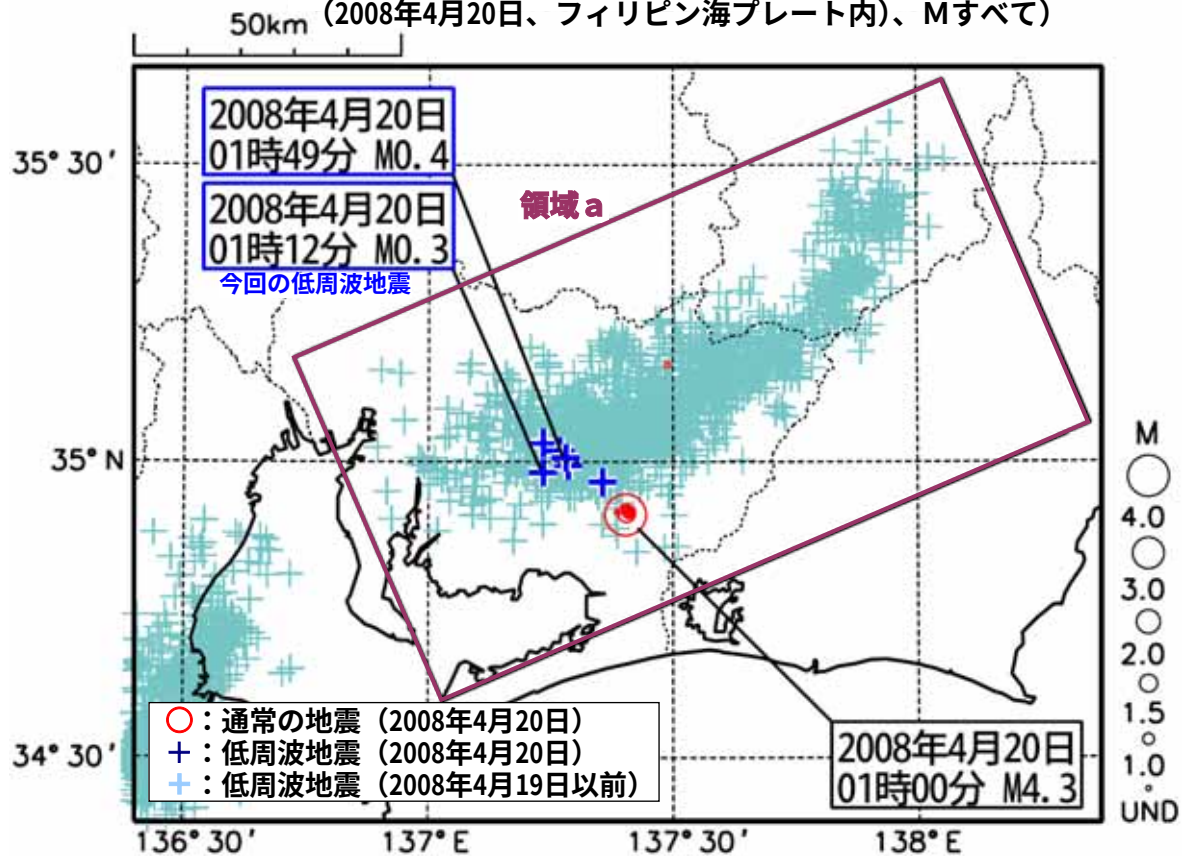


図2 4月20日愛知県西部の地震

4月20日 愛知県西部 低周波地震

震央分布図（低周波地震（1999年9月1日～2008年4月20日）及び通常の地震（2008年4月20日、フィリピン海プレート内）、Mすべて）



2008年4月20日01時00分に愛知県西部の深さ37kmでM4.3の地震（最大震度3）が発生した。

この地震発生直後の01時12分から低周波地震が発生したが、活動は02時までに収まった。この間の最大の低周波地震は01時49分に発生したM0.4の地震である。

なお、周辺の歪計等に明瞭な変化は認められていない。

図3 4月20日愛知県西部低周波地震

東海地域の地震活動指数 (クラスタを除いた地震回数による)

2008年4月23日 現在

	① 固着域		② 愛知県		③ 浜名湖			④ 駿河湾
	地殻内	フィリ ピン海 プレート	地殻内	フィリ ピン海 プレート	フィリピン海プレート内			全域
					西側	全域	東側	
短期活動指数	7	4	4	4	4	4	5	2
短期地震回数 (平均)	12 (6.31)	5 (5.91)	14 (13.23)	15 (14.08)	2 (2.46)	6 (5.99)	4 (3.53)	2 (6.06)
中期活動指数	8	4	6	4	2	2	3	1
中期地震回数 (平均)	38 (18.93)	17 (17.74)	48 (39.68)	42 (42.24)	2 (4.93)	7 (11.99)	5 (7.06)	6 (12.12)

* Mしきい値： 固着域、愛知県、浜名湖：M $\geq$ 1.1、駿河湾：M $\geq$ 1.4

* クラスタ除去：震央距離が Δr 以内、発生時間差が Δt 以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。

固着域、愛知県、浜名湖： $\Delta r=3\text{km}$ 、 $\Delta t=7\text{日}$

駿河湾： $\Delta r=10\text{km}$ 、 $\Delta t=10\text{日}$

* 対象期間： 固着域、愛知県：短期30日間、中期90日間

浜名湖、駿河湾：短期90日間、中期180日間

* 基準期間： 固着域、愛知県：1997年—2001年（5年間）、浜名湖：1998年—2000年（3年間）、
駿河湾：1991年—2000年（10年間）

[各領域の説明] ① 固着域：プレート間が強く「くっついている」と考えられている領域。

② 愛知県：フィリピン海プレートが沈み込んでいく先の領域。

③ 浜名湖：固着域の縁。長期的スロースリップ（ゆっくり滑り）が発生する場所
であり、同期して地震活動が変化すると考えられている領域。

④ 駿河湾：フィリピン海プレートが沈み込み始める領域。

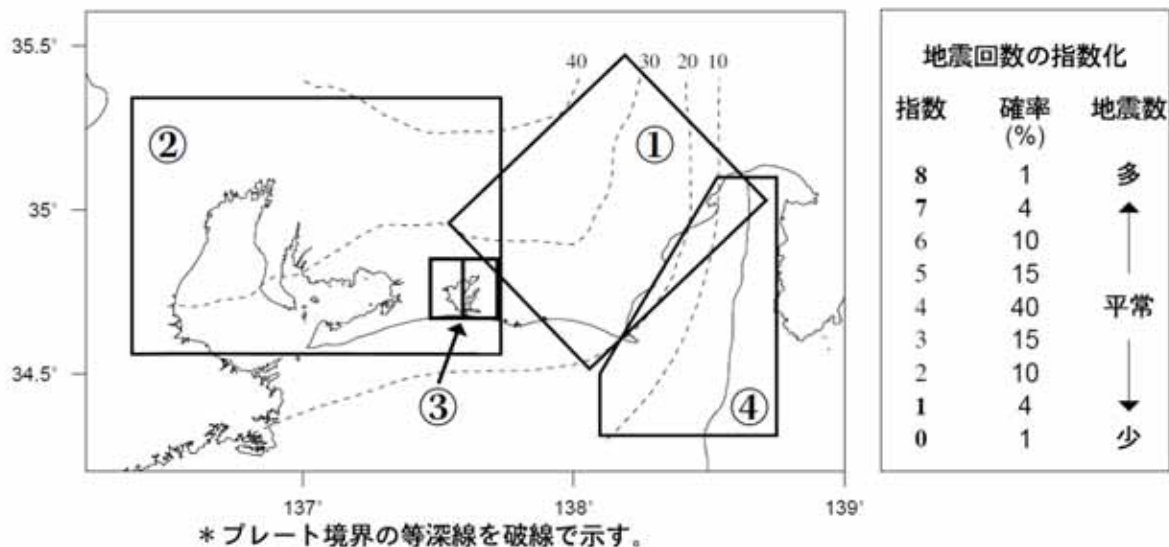


図4 東海地域の地震活動指数

固着域の地殻内で活動指数が高い。駿河湾の中期では指数が低い。

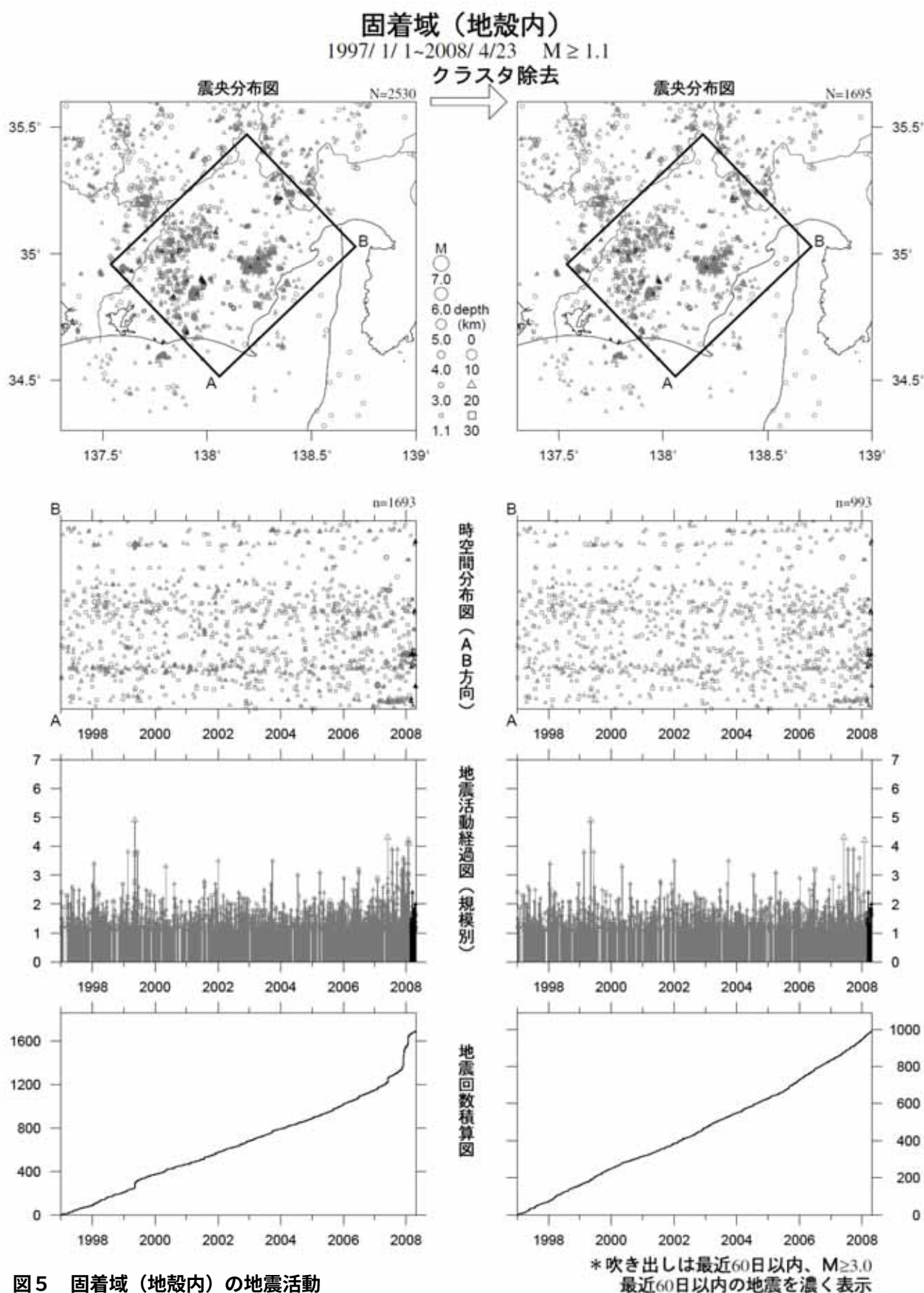


図5 固着域（地殻内）の地震活動

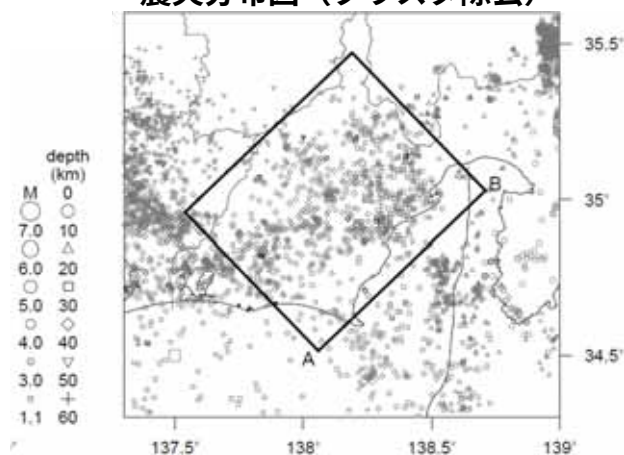
静岡県西部の地震活動活発化は、1997年以降では珍しい規模の回数増加であった（左下）。クラスタ除去後の地震回数積算図（右下）を見ると、2000年半ばまでは傾きが急で活発、その後2005年半ばまでは低調、2005年半ば以降は活発、という傾向が見られる。

固着域（フィリピン海プレート内）

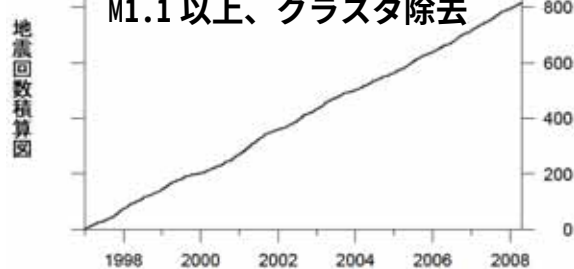
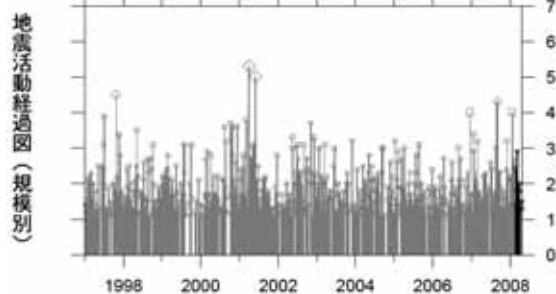
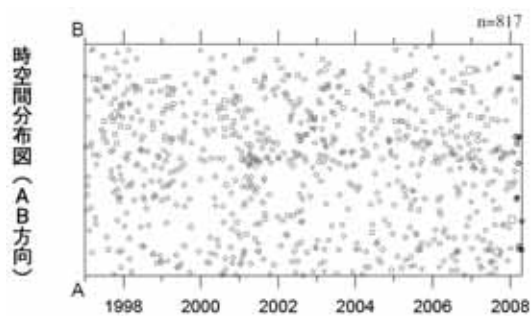
[M1.1 以上]

1997/1/1~2008/4/23

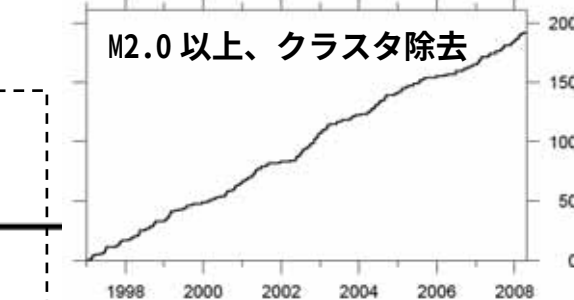
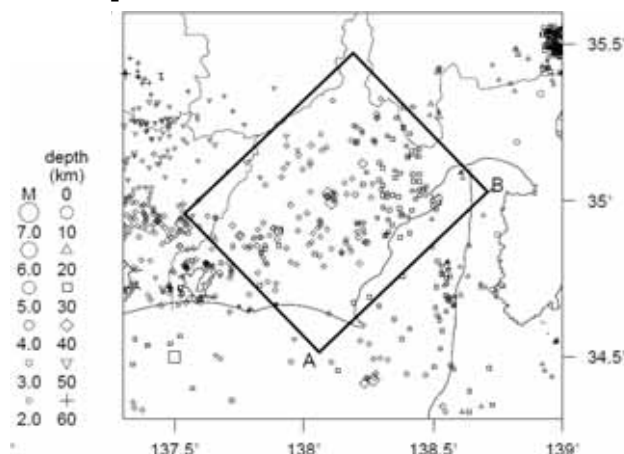
震央分布図（クラスタ除去）



最近 60 日以内の地震を濃く表示



[M2.0 以上]



[M3.5 以上]

2001 年後半ごろから M3.5 以上の地震発生回数が少ない。そのような状況の中、2006 年 12 月 16 日 M4.0、2007 年 8 月 31 日 M4.3、2008 年 1 月 20 日に M4.0 の地震が発生した。98 年後半～2000 年前半にも静穏な時期があった。M2.0 以上では、2005 年半ば以降やや静穏であったが 2007 年に入って回復。

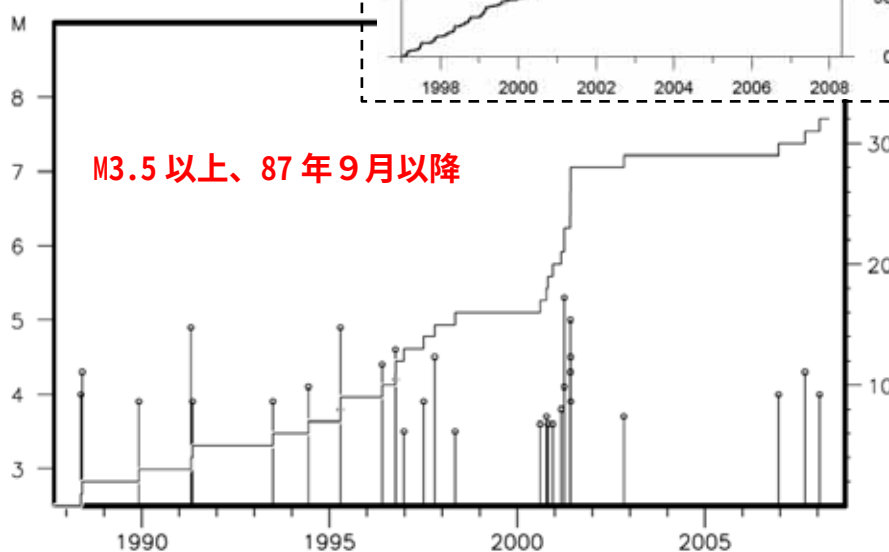


図6 固着域（フィリピン海プレート内）の地震活動

2001 年後半ごろから M3.5 以上の地震発生回数が少ない。

浜名湖（フィリピン海プレート内）

1995/ 1/ 1~2008/ 4/23 M ≥ 1.1 *クラスタ除去したデータ

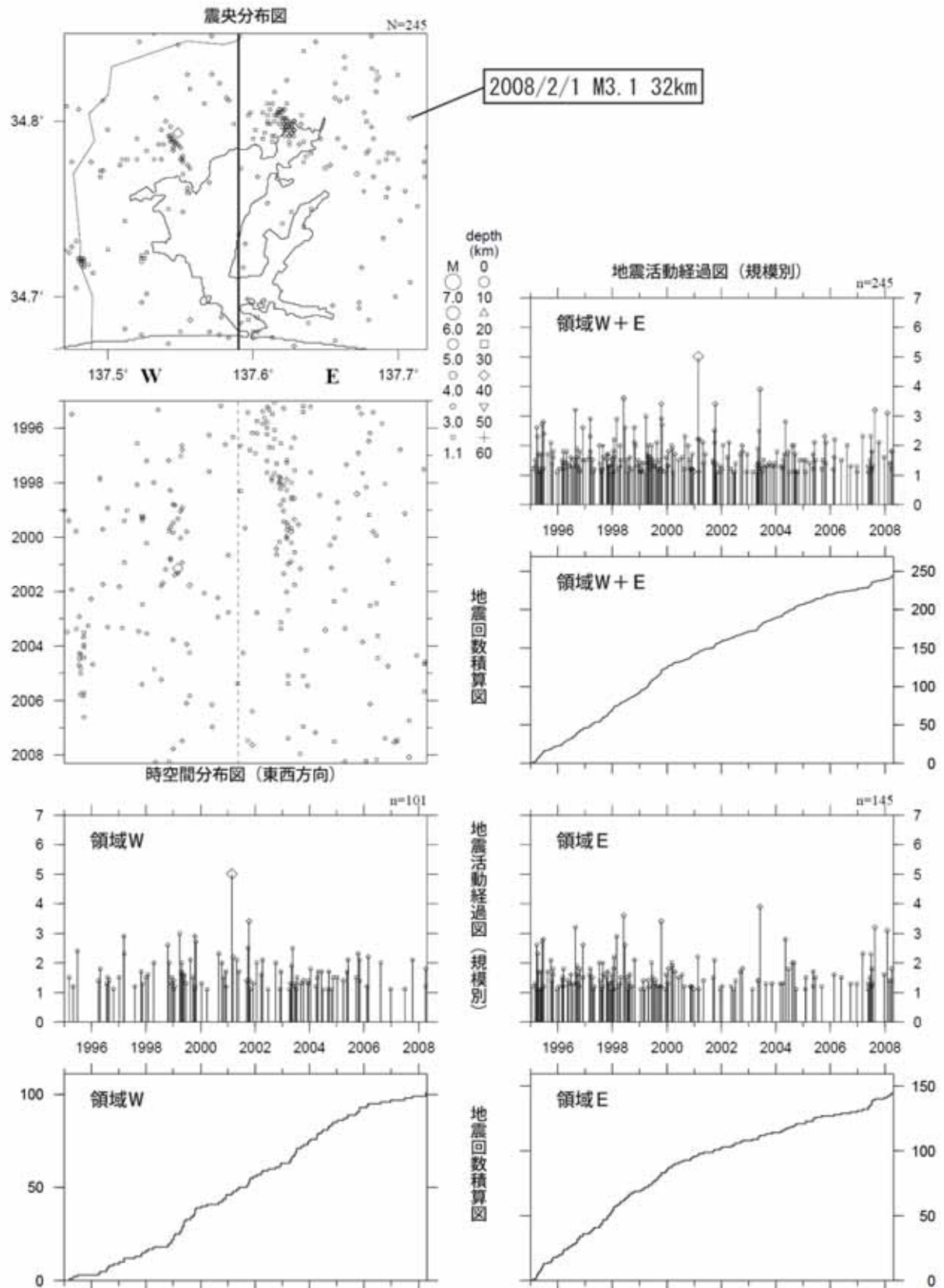


図7 浜名湖付近のフィリピン海プレート内の地震活動

領域Eでは2000年終わりごろからの活動の低下が継続していたが、2007年7月～9月ごろにかけて回復した。その後は再び低下している。2008年2月1日にM3.1の地震が発生したことから、今期の短期指数が5に回復しているが、揺らぎかどうか今後の経過を見る必要がある。領域Wは2006年以降、活動が低下した状況であったが、最近2回地震が発生したため短期地震活動指数は平常の4になった。

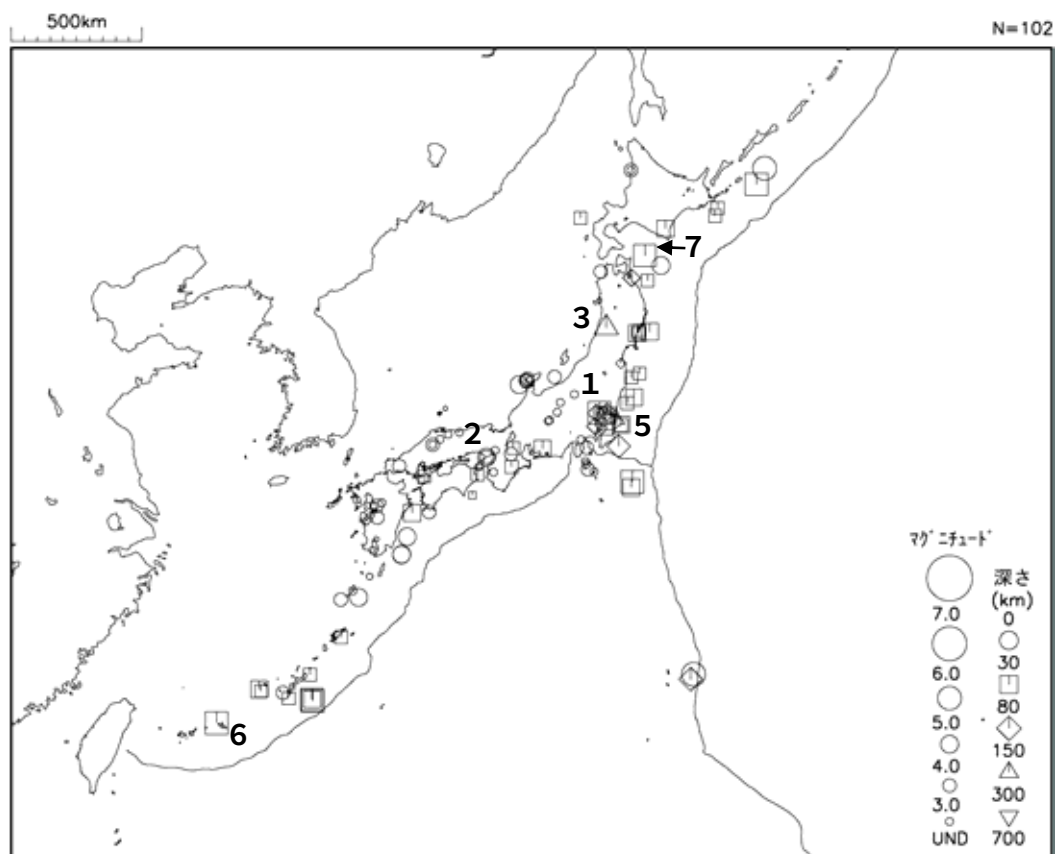


図1 平成20年4月に震度1以上を観測した地震
(図中の番号は、別紙1の表の番号に対応する地震)

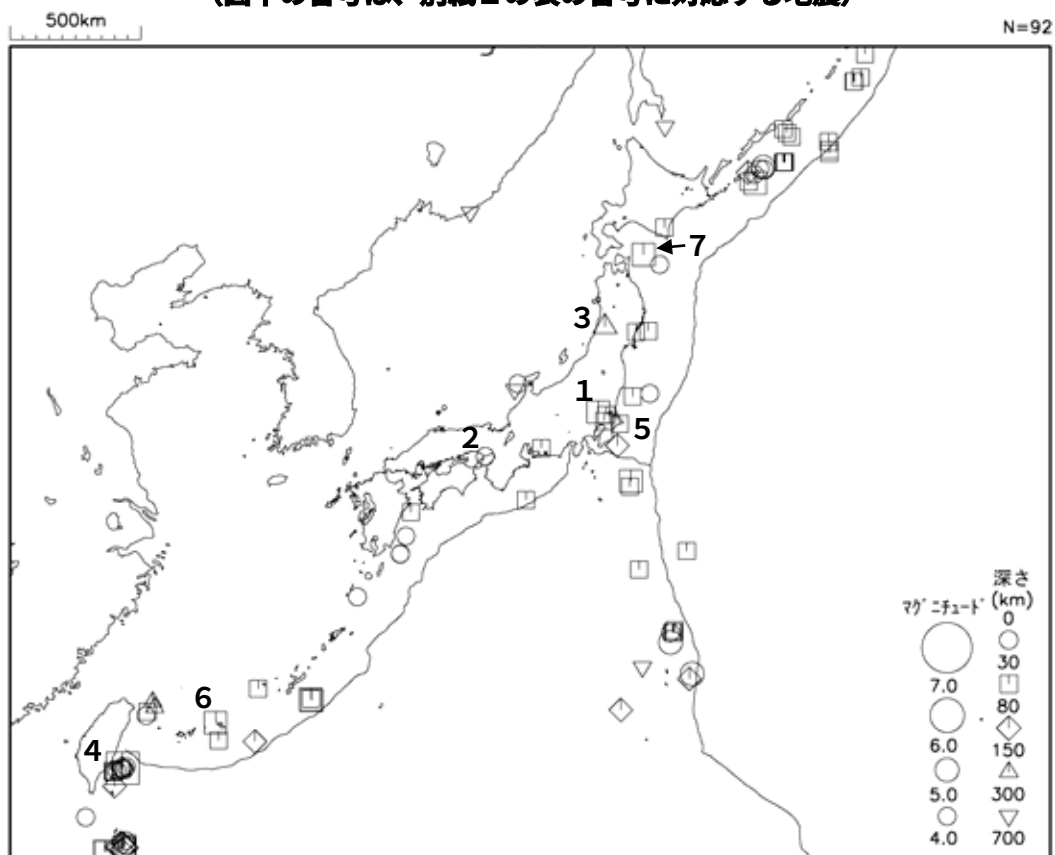


図2 平成20年4月に発生したM4.0以上の地震
(図中の番号は、別紙1の表の番号に対応する地震)

総数：8,537

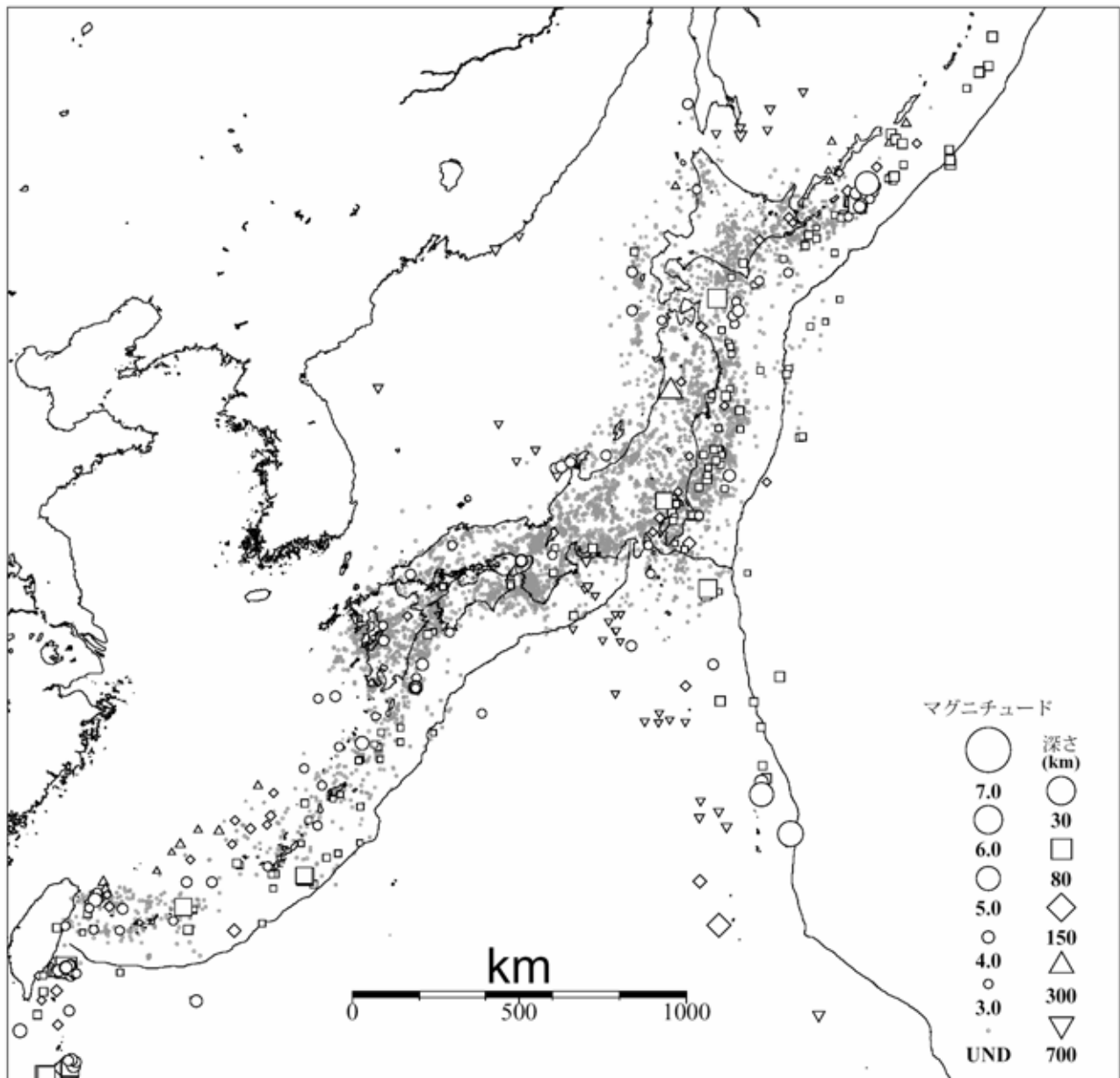


図3 気象庁が震源を決定した日本付近の平成20年4月の地震の震央分布
(M3.0以上の地震については白抜きで示す)

● 表1. 過去1年間に震度1以上を観測した地震の最大震度別の月別回数
 ＜平成19年（2007年）4月～平成20年（2008年）4月＞

	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	計	記事
平成20年（2008年）											
4月	64	25	8	5						102	
3月	59	24	11	2						96	
2月	58	24	5							87	
1月	59	30	6	1	1					97	26日 石川県能登地方（震度5弱） 静岡県西部（震度3：1回、震度2：5回、 震度1：7回）
平成20年計	240	103	30	8	1					382	（平成20年1月～平成20年4月）
平成19年（2007年）											
12月	66	33	9	2						110	静岡県西部（震度2：4回、震度1：7回）
11月	63	22	5	2						92	
10月	89	41	9	4		1				144	1日 神奈川県西部（震度5強） 新島・神津島近海（震度4：1回、 震度2：1回、震度1：9回） 大分県中部（震度3：3回、震度2：3回、 震度1：6回）
9月	99	21	6							126	
8月	107	35	23	4	1					170	平成19年(2007年)新潟県中越沖地震の余震 （震度3：1回、震度2：5回、震度1：13回） 九十九里浜付近の地震活動 （震度5弱：1回、震度4：3回、 震度3：7回、震度2：7回、震度1：10回）
7月	169	83	24	7			1	1		285	平成19年(2007年)新潟県中越沖地震とその余震 （震度6強：1回、震度6弱：1回、 震度4：5回、震度3：11回、 震度2：49回、震度1：71回） 伊豆大島近海（震度3：5回、 震度2：6回、震度1：25回）
6月	126	47	13	9						195	大分県中部（震度4：3回、震度3：6回、 震度2：16回、震度1：39回） 平成19年(2007年)能登半島地震の余震 （震度4：1回、震度3：1回、 震度2：3回、震度1：6回）
5月	92	37	10	3						142	平成19年(2007年)能登半島地震の余震 （震度4：1回、震度2：9回、 震度1：20回）
4月	135	47	23	7		1				213	15日 三重県中部（震度5強） 平成19年(2007年)能登半島地震の余震 （震度4：1回、震度3：7回、 震度2：20回、震度1：66回）
過去1年計	987	397	121	34	2	1	1	1		1544	（平成19年5月～平成20年4月）

注)①「記事」欄の「*」は関連の地震で震度1以上を観測した地震の回数。「記事」欄には主に震度5弱以上を観測した地震、または震度1以上を10回以上観測した地震活動について記載した。

②地方公共団体等の震度計による震度の発表開始年月日。

平成9(1997)年11月10日 秋田県、埼玉県、横浜市（神奈川県）、新潟県、愛知県、大阪府、奈良県、和歌山県、岡山県、山口県

平成10(1998)年6月15日 群馬県、福井県、静岡県、三重県、島根県、愛媛県

10月15日 青森県、山形県、茨城県、石川県、京都府、兵庫県、鳥取県、広島県、徳島県、熊本県、
宮崎県、鹿児島県

平成11(1999)年7月21日 東京都、長野県

平成12(2000)年1月12日 栃木県、千葉県、岐阜県、名古屋市（愛知県）

3月28日 滋賀県

7月18日 富山県、香川県、大分県

平成13(2001)年3月22日 佐賀県 5月10日 山梨県、川崎市（神奈川県）

7月19日 高知県 12月12日 福島県

平成14(2002)年3月20日 岩手県、宮城県、神奈川県、福岡県、仙台市（宮城県）

7月29日 北海道、長崎県

平成15(2003)年3月10日 沖縄県

平成16(2004)年5月26日 独立行政法人防災科学技術研究所

● 表2．日本及びその周辺におけるマグニチュード (M)別の月別地震回数
 ＜平成19年（2007年）4月～平成20年（2008年）4月＞

	M3.0 ～ M3.9	M4.0 ～ M4.9	M5.0 ～ M5.9	M6.0 ～ M6.9	M7.0 以上	計 M3.0以上	計 M4.0以上	記事
平成20年（2008年）								
4月	269	74	17	1		361	92	24日：台湾付近 (M6.3)
3月	257	81	17	2		357	100	3日：千島列島東方 (M6.9) 15日：父島近海 (M6.6)
2月	224	49	5	1		279	55	27日：父島近海 (M6.6)
1月	249	65	2			316	67	
平成20年計	999	269	41	4		1313	314	(平成20年1月～平成20年4月)
平成19年（2007年）								
12月	247	58	13	1		319	72	7日：鳥島近海 (M6.0)
11月	254	62	6	1		323	69	26日：福島県沖 (M6.0)
10月	281	79	8	1	1	370	89	25日：千島列島東方 (M6.2) 31日：マリアナ諸島 (M7.1)
9月	224	52	4	2	1	283	59	4日：千島列島 (M6.3) 7日：台湾付近 (M6.6) 28日：マリアナ諸島 (M7.6)
8月	404	104	18	3		529	125	1日：沖縄本島北西沖 (M6.1) 2日：サハリン西方沖 (M6.4) 7日：沖縄本島北西沖 (M6.3)
7月	348	76	14	3		441	93	9日：千島列島東方 (M6.2) 16日：平成19年（2007年）新潟県中越沖地震 (M6.8) 16日：京都府沖 (M6.7) 平成19年（2007年）新潟県中越沖地震の余震活動 (M3.0～3.9：88回、M4.0～4.9：12回、 M5.0～5.9：1回)
6月	269	70	12			351	82	
5月	263	70	11			344	81	平成19年（2007年）能登半島地震の余震活動 (M3.0～3.9：20回、M4.0～4.9：3回)
4月	373	110	33	3		519	146	20日：宮古島北西沖 (M6.3, M6.7, M6.1) 平成19年（2007年）能登半島地震の余震活動 (M3.0～3.9：55回、M4.0～4.9：8回)
過去1年計	3289	840	127	15	2	4273	984	(平成19年5月～平成20年4月)

注)日本及びその周辺：原則、北緯20～49度、東経120～154度の範囲。「記事」欄には主にM6.0以上の地震について記載した。

●世界の主な地震

平成 20 年（2008 年）4 月に世界で発生したマグニチュード（M）6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布を図 1 に示す。また、その震源要素等を表 1 に示す。

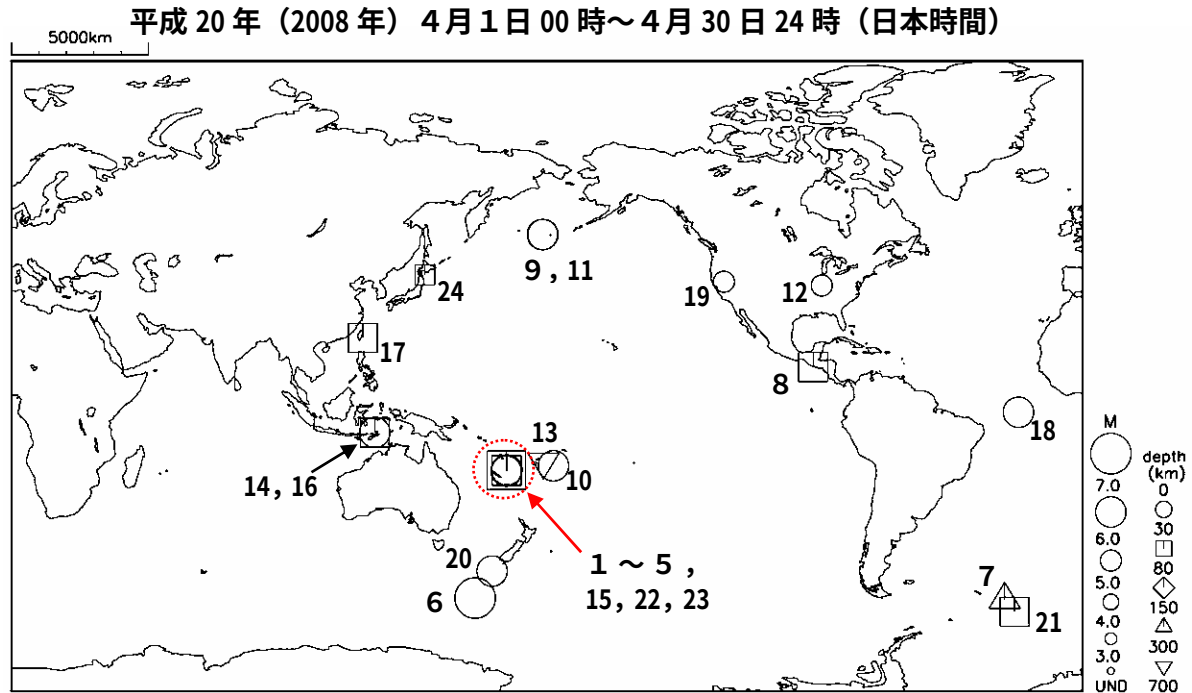


図 1 平成 20 年（2008 年）4 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布

＜震源要素は米国地質調査所(USGS)発表の QUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による＞

- * : 数字は、表 1 の番号に対応する。
- ** : マグニチュードは mb（実体波マグニチュード）、Ms（表面波マグニチュード）、Mw（モーメントマグニチュード）のいずれか大きい値を用いて表示している。
- *** : 日本付近で発生した地震については、震源要素及びマグニチュードは気象庁による。

表 1 平成 20 年（2008 年）4 月に世界で発生したマグニチュード 6.0 以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	震源時 月 日 時 分	緯度	経度	深さ (km)	mb	Ms	Mw	震央地名	備考（被害状況など）
1	04月09日20時13分	S20° 10.5'	E168° 52.3	13	5.5	6.3	6.4	ローヤリティー諸島	
2	04月09日20時23分	S20° 13.3'	E168° 55.3	35	5.7		6.3	ローヤリティー諸島	
3	04月09日21時46分	S20° 05.3'	E168° 51.1	33	6.2		7.3	ローヤリティー諸島	
4	04月09日23時47分	S19° 59.8'	E168° 52.6	35	5.9	6.1	6.3	バヌアツ諸島	
5	04月12日02時45分	S20° 21.4'	E168° 50.5	10	5.7	6.1	6.0	ローヤリティー諸島	
6	04月12日09時30分	S55° 36.8'	E158° 34.5	16	6.7		7.1	マクオーリー島	
7	04月14日18時45分	S55° 59.6'	W 28° 01.9	150	6.0		6.0	サウスサンドウィッチ諸島	
8	04月15日12時03分	N13° 33.7'	W 90° 41.8	33			6.1	グアテマラ沿岸	建物被害 8 棟など
9	04月16日07時59分	N51° 53.5'	W179° 22.8	10	6.2	6.4	6.4	アリューシャン列島アンド	
10	04月16日09時35分	S18° 39.0'	W175° 43.6	10	5.6	6.3	6.3	トンガ諸島	
11	04月16日14時54分	N51° 53.3'	W179° 11.2	13	6.1	6.5	6.6	アリューシャン列島アンド	
12	04月18日18時37分	N38° 27.0'	W 87° 53.4	12	5.1		5.2	米国、インディアナ州南部	建物被害数棟
13	04月19日05時39分	S17° 18.9'	W179° 01.7	554	5.9		6.3	フィジー諸島	
14	04月19日12時12分	S 7° 50.3'	E125° 44.9	33	5.8	5.8	6.1	バンダ海	
15	04月19日14時58分	S20° 18.6'	E168° 46.8	14	5.7	6.2	6.3	ローヤリティー諸島	
16	04月19日19時21分	S 7° 49.7'	E125° 44.3	10	5.6	5.6	6.0	バンダ海	
17	04月24日03時28分	N22° 55.3'	E121° 48.8	44	5.7	(6.3)	6.0	台湾付近	
18	04月24日21時14分	S 1° 13.7'	W 23° 30.1	10	5.5	6.0	6.5	大西洋中央海嶺中部	
19	04月26日15時40分	N39° 31.2'	W119° 55.8	1	4.7			米国、ネバダ州	軽微な被害
20	04月27日08時34分	S49° 03.0'	E164° 09.4	10	6.0		6.1	オークランド諸島	
21	04月29日00時57分	S58° 42.4'	W 24° 44.6	35	5.5	5.9	6.1	サウスサンドウィッチ諸島	
22	04月29日03時33分	S19° 57.1'	E168° 59.8	10	6.2		6.4	バヌアツ諸島	
23	04月29日05時26分	S20° 15.6'	E168° 52.7	10			6.1	ローヤリティー諸島	
24	04月29日14時26分	N41° 27.7'	E142° 06.5	62		(5.7)	5.8	青森県東方沖	負傷者 2 人

- ・震源要素、被害状況等は米国地質調査所(USGS)発表の QUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による（平成 20 年 5 月 8 日現在）。ただし、Mw は Global CMT による。また、日本付近で発生した地震の震源要素及びマグニチュード（Ms の欄に括弧を付して記載）は気象庁による。
- ・震源時は日本時間〔日本時間＝協定世界時＋9 時間〕である。

全国月間火山概況

桜島では、8日に昭和火口で爆発的噴火が発生し、活動が活発化するおそれがあることから、火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げました。

その他の火山は予報警報事項に変更はありません。5月9日現在の各火山の噴火警報及び噴火予報の発表状況は以下のとおりです。



図1 噴火警報発表中の火山

・噴火警戒レベル導入火山

火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）

桜島

火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）

三宅島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島

噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）

樽前山、北海道駒ヶ岳、岩手山、吾妻山、草津白根山、浅間山、御嶽山、富士山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（御鉢、新燃岳）、口永良部島

・噴火警戒レベル未導入火山

火口周辺警報（火口周辺危険）

硫黄島

噴火警報（周辺海域警戒）

福徳岡ノ場

噴火予報（平常）

知床硫黄山、羅臼岳、摩周、アトサヌプリ、雌阿寒岳、丸山、大雪山、十勝岳、利尻山、恵庭岳、倶多楽、有珠山、羊蹄山、ニセコ、恵山、渡島大島、恐山、岩木山、八甲田山、十和田、秋田焼山、八幡平、秋田駒ヶ岳、鳥海山、栗駒山、鳴子、肘折、蔵王山、安達太良山、磐梯山、沼沢、燧ヶ岳、那須岳、高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、新潟焼山、妙高山、弥陀ヶ原、焼岳、アカンダナ山、乗鞍岳、白山、箱根山、伊豆東部火山群、利島、新島、神津島、御蔵島、八丈島、青ヶ島、ベヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、嬬婦岩、西之島、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福徳堆、南日吉海山、日光海山、三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄鳥島、西表島北北東海底火山、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、挾娑焼山、挾娑阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山

（火山の順は活火山総覧（第3版）による）

注）噴火警戒レベルには、レベル毎に防災機関等の行動がキーワードとして示されており、導入にあたっては、噴火警戒レベルの活用が地域防災計画等に定められることが条件となります。

【各火山の活動状況及び予報警報事項】

全国の主な火山の活動状況及び予報警報事項は以下のとおりです。その他の火山については、火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

三宅島 【火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)】

5月8日(期間外)08時32分頃、山頂火口でごく小規模な噴火が発生し、灰色の噴煙が火口縁上200mまで上がり南東に流れるのを観測しました。4月11日23時29分に空振を伴う低周波地震が発生し、三宅村坪田及び三宅村神着で震度1を観測しました。地震発生時の噴煙の状況は天候不良のため確認できませんでした。現地調査ではいずれも降灰は確認されませんでした。

15日及び21日に行った現地調査では二酸化硫黄放出量は一日あたり1,000～2,000トンで、依然として多量の火山ガス放出が続いています。また、三宅村の火山ガス濃度観測によると、山麓でたびたび高濃度の二酸化硫黄が観測されています。

山頂火口直下を震源とする火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態が続いています。

噴煙高度は火口縁上概ね100～200mで推移しました。

地磁気連続観測では、山体内部の温度低下を示す変化が鈍化しながらも続いています。

GPS連続観測では、山体浅部の収縮が徐々に小さくなりながら継続しています。

三宅島では火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口周辺では噴火等に対する警戒が必要です。また、風下にあたる地区では火山ガスに対する警戒が必要です。雨による泥流にも注意が必要です。

硫黄島 【火口周辺警報(火口周辺危険)】

国土地理院及び独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過していますが、島全体が大きく隆起する地殻変動は継続しています。

硫黄島では火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火がみられていた領域では警戒が必要です。

福徳岡ノ場 【噴火警報(周辺海域警戒)】

17日に海上自衛隊が行った上空からの観測によると、火山活動によると考えられる変色水が確認されました。26日に第三管区海上保安本部が行った上空からの観測では、福徳岡ノ場付近の海域に変色水は確認されませんでした。

福徳岡ノ場では小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では警戒が必要です。

阿蘇山 【噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)】

中岳第一火口の湯だまりの湯量や表面温度に変化はありません。中岳第一火口南側火口壁の一部の噴気孔では引き続き赤熱現象が確認されています。

孤立型微動の回数は、3月31日(前期間)から4月3日にかけて一時的に一日あたり600回を超えたほか、4日以降も一日あたり概ね300回と多い状態が続いています。これらの振幅は概ね小さいものでした。

地震活動及び噴煙活動は低調な状態で、地殻変動や地磁気に特段の変化はありません。

阿蘇山では火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられません。ただし、火口内では噴気や火山ガスの噴出が見られることから、火口内等では火山灰噴出等に警戒が必要です。また、火口付近では火山ガスに対する注意が必要です。

桜島 【火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)】 ←8日に噴火警戒レベル2(火口周辺規制)から引き上げ

8日、昭和火口で爆発的噴火が発生し、活動が活発化するおそれがあることから、火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)を発表し、噴火警戒レベルをレベル2(火口周辺規制)からレベル3(入山規制)に引き上げました。

8日00時29分の噴火では、弾道を描いて飛散する噴石が5合目(南岳山頂火口から約500m)まで達し、火砕流が昭和火口の東約1kmまで流下しました。

昭和火口では、このほかにも時々噴火が発生しました。このうち11日の噴火では噴煙高度が火口縁上2,200mに達しました。また、夜間には山麓の高感度カメラ^{注)}で捉えられる程度の火映が4日から8日、19日から22日、26日及び30日に観測されています。

一方南岳山頂火口では28日にごく小規模な噴火が発生しました。

二酸化硫黄放出量は、1日の観測では一日あたり200～400トンと少ない状態でしたが、4日、8

日及び 18 日の観測ではいずれも一日あたり 1,500～3,000 トンに増加しています。

国土地理院による GPS 連続観測では、始良(あいら)カルデラ(鹿児島湾奥部)の地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な膨張が継続しています。

桜島では、活動が活発化するおそれがあるので、南岳山頂火口及び昭和火口から 2 km 程度の範囲で弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石(火山れき)に注意が必要です。降雨時には泥流や土石流に注意が必要です。

なお、昭和火口の噴火活動は、2006 年 6 月の噴火以降、次第に活発化している傾向がみられます。今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

注) 九州地方整備局大隅河川国道事務所の黒神河原上流右岸設置カメラによる。

薩摩硫黄島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや活発で、噴煙高度は火口縁上概ね 200m で推移しました。

火山性地震はやや多い状態が続いています。

硫黄岳山頂火口周辺では噴火に対する警戒が必要です。

諏訪之瀬島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]

爆発的噴火が 16 日に発生するなど、長期にわたり噴火を繰り返しています。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いています。

諏訪之瀬島では今後も御岳火口から半径約 1 km の範囲に弾道を描いて飛散する噴石が達する程度の小規模な噴火が発生すると予想されるので、これらの地域では噴火に対する警戒が必要です。

(火山の順は活火山総覧(第 3 版)による)

資料1 全国の火山の噴火警報及び噴火予報の発表状況のまとめ（平成20年5月9日現在）

（1）主な活火山

	火山名	噴火警報及び噴火予報の発表状況 （5月9日現在）	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
北海道地方	雌阿寒岳	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	十勝岳	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	樽前山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	倶多楽	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	有珠山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	北海道駒ヶ岳	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	恵山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
東北地方	岩木山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	岩手山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	秋田駒ヶ岳	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	栗駒山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	吾妻山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	安達太良山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	磐梯山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
関東・中部地方・伊豆・小笠原諸島	那須岳	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	草津白根山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	浅間山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	新潟焼山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	御嶽山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2008年3月31日 噴火予報（レベル1、平常）
	白山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	富士山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	箱根山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	伊豆東部火山群	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	伊豆大島	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	三宅島	火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年3月31日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	八丈島	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	硫黄島	火口周辺警報（火口周辺危険）	2007年12月1日 火口周辺警報（火口周辺危険）
	福徳岡ノ場	噴火警報（周辺海域危険）	2007年12月1日 噴火警報（周辺海域警戒）
九州地方・南西諸島	九重山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	阿蘇山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	雲仙岳	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	霧島山（新燃岳）	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	霧島山（御鉢）	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	桜島	火口周辺警報 （レベル3、入山規制）	2007年12月1日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年2月3日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2008年2月20日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年4月8日 火口周辺警報（レベル3、入山規制）
	薩摩硫黄島	火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	口永良部島	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年1月25日 噴火予報（レベル1、平常）
	諏訪之瀬島	火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）

注）噴火警報及び噴火予報の発表履歴欄には、平成19年12月1日の噴火警報及び噴火予報の発表と噴火警戒レベルの運用開始からの経過を示す。

この表では、主な活火山として、警報を発表している、または連続的に監視を行っている火山を示している。また、ここで示すレベルは噴火警戒レベルである。

(2) その他の活火山

以下の活火山では平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表し、その後、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

	火 山 名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、摩周、アトサヌブリ、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山
東北地方	恐山、八甲田山、十和田、秋田焼山、八幡平、鳥海山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、燧ヶ岳
関東・中部地方 及び伊豆・小笠原諸島	高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、焼岳、アカンダナ山、乗鞍岳、利島、新島、神津島、御蔵島、青ヶ島、ベヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孀婦岩、西之島、海形海山、海德海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山
中国・九州地方 及び南西諸島	三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄島、西表島北北東海底火山

● 世界の主な火山活動

平成 20 年（2008 年）4 月に噴火したと報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。
なお、今期間は顕著な噴火の報告はなかった。

チャイテン（チリ）（図中A）（期間外）

チリの首都サンティアゴ（Santiago）から 1200 キロ南方のチャイテン（Chaiten）で 5 月 2 日、火山が噴火し、周辺地域に大量の火山灰を降らせている。火山から約 10 キロの位置にあるチャイテンでは、4000 人の住民ほぼ全員が避難したとされる。当局は最高レベルの警戒を発令し、周辺地域の住民に対し避難を指示した。（AFP）

（以上、米国スミソニアン自然史博物館の GVP（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）

